

市民等との協働事業

（令和5年度実施）



青梅市

市民安全部市民活動推進課

令和5年度実施 市民等との協働事業一覧

| NO. | 部 | 課 | 係 | 事業名 | ページ 番号 |
|-----|-------|---------|-----------|----------------------------|-----------|
| 1 | 市民安全部 | 市民安全課 | ジェンダー平等担当 | ジェンダー平等情報紙発行事業 | 1 |
| 2 | | 市民活動推進課 | 市民活動推進係 | 協働事業市民推進委員会 | 3 |
| 3 | | | | お〜ちゃんフェスタ | 5 |
| 4 | | | | 一般向けボランティア講座 | 7 |
| 5 | | | | 「おそきだより」の発行 | 9 |
| 6 | | | 長洲市民センター | 長洲市民センター運営協議会 | 11 |
| 7 | | | | 長洲地区文化祭 | 13 |
| 8 | | | 大門市民センター | 大門市民センター運営協議会 | 15 |
| 9 | | | | 大門市民センター文化展 | 17 |
| 10 | | | 梅郷市民センター | 梅郷市民センター運営協議会 | 19 |
| 11 | | | | 梅郷地区総合文化祭実行委員会 | 21 |
| 12 | | | 沢井市民センター | 沢井市民センター運営協議会会議 | 23 |
| 13 | | | | 三田地区総合文化祭 | 25 |
| 14 | | | 小曾木市民センター | 小曾木市民センター運営協議会 | 27 |
| 15 | | | | 小曾木地区文化祭 | 29 |
| 16 | | | 成木市民センター | 成木市民センター運営協議会 | 31 |
| 17 | | | | 成木地区文化祭 | 33 |
| 18 | | | 東青梅市民センター | 東青梅市民センター運営協議会 | 35 |
| 19 | | | | 東青梅市民センターコミュニティ文化祭 | 37 |
| 20 | | | | 第八支会ささえあいフェスティバル | 39 |
| 21 | | | 新町市民センター | 新町市民センター運営協議会 | 41 |
| 22 | | | | 新町末広町地区市民文化祭 | 43 |
| 23 | | | 河辺市民センター | 河辺市民センター運営協議会 | 45 |
| 24 | | | | 河辺市民センター文化祭 | 47 |
| 25 | | | 今井市民センター | 今井市民センター運営協議会 | 49 |
| 26 | | | | 今井市民センター文化展 | 51 |
| 27 | | | | 市民ウォーキング | 53 |
| 28 | 環境部 | 環境政策課 | 管理係 | おうめ環境フェスタ | 55 |
| 29 | | | | 環境ニュース | 57 |
| 30 | | | | クールビズ運動 | 59 |
| 31 | | | | みんなで打ち水！ | 61 |
| 32 | | | | ウォームビズ運動 | 63 |
| 33 | | | | エコドライブ運動 | 65 |
| 34 | | | | みどりのカーテン事業 | 67 |
| 35 | | | | ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊 | 69 |
| 36 | | | | 多摩川まるごと遊び塾 | 71 |
| 37 | | | | がんばれ！あゆっ子2023 | 73 |
| 38 | | | | 第15回炭焼き体験と水辺の交流会 | 75 |
| 39 | | | | お魚釣りを楽しもう | 77 |
| 40 | | | | 親子魚釣り教室2023「青梅に棲むお魚は？」 | 79 |
| 41 | | | | 飼い主のいない猫のための「里親会」 | 81 |
| 42 | | | | 動物愛護週間イベントinおうめ | 83 |
| 43 | | | | さくらねこ無料不妊手術事業(いのちを考える会・青梅) | 85 |
| 44 | | | | さくらねこ無料不妊手術事業(おうめ猫の会) | 87 |
| 45 | | | | 生物多様性人材育成講座 | 89 |
| 46 | | | | 霞川で遊ぼう | 91 |

令和5年度実施 市民等との協働事業一覧

| NO. | 部 | 課 | 係 | 事業名 | ページ 番号 |
|-----|----------|-------------|-------------|---|-----------|
| 47 | 環境部 | 清掃リサイクル課 | ごみ減量推進係 | 「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業 | 93 |
| 48 | | 公園緑地課 | わくわく公園係 | 大塚山いこいの森ボランティア | 95 |
| 49 | | | | 緑地管理ボランティア | 97 |
| 50 | | | みどり推進係 | 青梅の森紬保プロジェクト(青梅の森保全事業) | 99 |
| 51 | 健康福祉部 | 高齢者支援課 | いきいき高齢者係 | 青梅市見守り支援ネットワーク事業 | 101 |
| 52 | | | | 高齢者向けスマートフォン教室・パソコン教室開催事業 | 103 |
| 53 | | | 包括支援係 | 認知症サポーター養成研修事業 | 105 |
| 54 | | | | 青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会 | 107 |
| 55 | | 障がい者福祉課 | サービス給付係 | 青梅市中級手話講習会 | 109 |
| 56 | | 健康課 | 健康推進係 | おうめ健康まつり(市民対象の健康管理と啓発活動) | 111 |
| 57 | こども家庭部 | 子育て応援課 | 子育て推進係 | 青梅市ファミリー・サポート・センター事業 | 113 |
| 58 | | | | あつまれ！0.1.2.3ちびっこ☆ランド | 115 |
| 59 | | | | あそぼうよ！青梅 市民協働事業 外遊び型子育てひろば はらっぱ | 117 |
| 60 | | | | 子どもふれあいフェスタ2023 | 119 |
| 61 | | | 児童・青少年係 | 青梅市親子ふれあい事業ポッチャ大会 | 121 |
| 62 | 地域経済部 | シティプロモーション課 | 観光係 | 吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業 | 123 |
| 63 | | | | 梅の公園ガイドボランティア事業 | 125 |
| 64 | | 農林水産課 | 林務水産係 | 青梅市森林ボランティア育成講座 | 127 |
| 65 | 都市整備部 | 住宅課 | 住宅政策係 | 青梅市住宅なんでも相談会 | 129 |
| 66 | | | | 青梅市定例住宅相談会 | 131 |
| 67 | 学校教育部 | 指導室 | 指導係 | 学校教育ボランティア | 133 |
| 68 | 生涯学習部 | 社会教育課 | 生涯学習推進係 | 生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2022～ | 135 |
| 69 | | | | 家庭教育講演会 | 137 |
| 70 | | | 図書館管理係 | この指とまれ！朗読会 | 139 |
| 71 | | | | 中央図書館整架ボランティア | 141 |
| 72 | | | | おはなしボランティア | 143 |
| 73 | | | | 中高校生向け読書会「本好きたちの集い」～教えて！きみの一冊～ | 145 |
| 74 | | 文化課 | 吉川英治記念館担当 | 青梅市吉川英治記念館秋のライトアップと夜間開館 | 147 |
| 75 | | | | 地域連携展示『五月人形展』 | 149 |
| 76 | | | | 地域連携展示『ひな人形展』 | 151 |
| 77 | | | | ガイドボランティア養成講座 | 153 |
| 78 | | スポーツ推進課 | スポーツ推進係 | 第56回青梅マラソン大会 | 155 |
| 79 | 市民提案協働事業 | 清掃リサイクル課 | ごみ減量推進係 | 生ごみ(ぼかし)堆肥をつくってみよう！実験 | 157 |
| 80 | | 子育て応援課 | 子育て推進係 | アートスタート事業「はじめてのおしぱい」 | 164 |
| 81 | | 住宅課 | 住宅政策係 | おそきの空き家に住みたい♪かなえたい♪プロジェクト | 169 |
| 82 | | シティプロモーション課 | シティプロモーション係 | Challengers プロジェクト -青梅市出身のサッカー選手とボールを蹴ろう- | 173 |

令和5年度協働事業の実施結果における課題および今後について

協働団体側と行政側の評価にギャップが生じている事業や、見直しが必要とされている事業については、その問題点や改善すべき点を双方で共有し、スクラップアンドビルドの観点から、事業の廃止あるいは休止も視野に入れ、より効果的な事業展開を目指していく。

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | ジェンダー平等情報紙発行事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅商工会議所、NPO法人青梅こども未来、和楽倶楽部、市民公募2人 | | |
| 担当課・係 | 市民安全課ジェンダー平等担当 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | ジェンダー平等情報紙を通じて、市民に対しジェンダー平等参画意識の啓発と理解を深める。 |
| (3) 実施内容 | 委員会を年に6回から8回開催し、情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行（年2回）を行う。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対してジェンダー平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>情報誌の企画立案、情報収集、編集</p> <p>【青梅市側】</p> <p>情報誌の計画立案、情報収集、編集、発行</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

第30号ではよつばの手紙として初めてトランスジェンダー当事者の方への取材を実施するなど、市民編集委員のやりたいこと、発信したいことを全面に取り入れた内容となった。

【青梅市側】

第30号では、性的マイノリティの方への取材を実施するなど、「ジェンダー平等」とは何かを考えてもらう効果があったと考える。また、市民編集委員の発信したいことを全面に取り入れた内容となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

取材、校正等、編集作業に多くの時間を要するため、誌面を充実させることは大前提だが、編集委員の負担を少しでも減らす工夫が必要であると感じた。

【青梅市側】

公的機関発行の情報誌ということで、ある程度の公平さを求められる中、編集・執筆のスキルがないと編集作業があまり進まなくなっていく。編集委員の負担軽減と、記事の充実が反比例とならないように、スケジュールに余裕を持たせるなど調整をしていきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 協働事業市民推進委員会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NPO法人、ボランティア団体、自治会連合会、青梅市社会福祉協議会、市民公募など | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課市民活動推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。 |
| (3) 実施内容 | 市役所にて委員会を4回開催した（令和5年5月、7月、11月、令和6年1月）。青梅市の協働について委員会としての意見を庁内会議へ提出。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 「青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針」にもとづき委員会を設置した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>提案や意見の提示、意見交換、青梅市の協働事業推進についての評価</p> <p>【青梅市側】</p> <p>委員会の事務局、行政側として意見交換、今後の取り組みの検討</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民活動団体や自治会長、一般市民が生活や様々な市民活動をしているときに感じた生の声を行政に届け、行政側が実際に実施できていることの差を明確化し、それぞれの立場で意見交換することはとても大切であり、未来の街づくりの根源となる有意義なことである。市内全域で協働実施されている事業の状況を見守り改善につなげるためにも、この評価シートへの記載も改善しながらPDCAを回すことが大切と感じる。

【青梅市側】

各種団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会で、市の協働について意見交換を行った。様々なフィールドで活躍する委員の皆さんから市民活動団体の現状や課題、考えを知ることができること、また市が抱える課題等について直接意見交換できる場として大変有意義である。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

今年度は市の協働委員会の開始から約10年、また、コロナ禍も明けての開始時との状況変化を確認する意味で、市の協働事業を俯瞰しての課題抽出を実施した。行政と市民の協働意識向上と時代に合わせたPDCAを市政への反映させないと市政が停滞する行政・市民双方の危機感醸成にも更につなげたい。市民活動の課題解決に向けて喫緊の大きな課題から今後の委員会でも取り上げ、市内全域での状況確認と改善を図りたい。また委員の選出は広い意見を聞けるよう定員人数の確保をしたい。

【青梅市側】

「協働によるまちづくり」実現のため、当委員会での協議内容を庁内へ浸透、各施策へ反映させていくことが課題である。事務局として、的確な協議テーマの設定、会議の運営を調整していきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | お～ちゃんフェスタ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市社会福祉協議会（青梅ボランティア・市民活動センター） | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課市民活動推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。 |
| (3) 実施内容 | ボランティア・市民活動団体、福祉団体・施設、企業等によるブース出展、活動紹介・展示、舞台発表、フリーマーケット。 令和5年9月17日（日）開催。来場者数3,300人。ブース出展42団体、室内出展4団体、舞台発表10団体、フリーマーケット28区画。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業企画・運営、広報活動</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業実施に伴う会場・庁内調整、広報活動</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 5 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民活動推進課より、警備員の配置など、具体的な提案をしていただいたおかげで、例年以上にスムーズな運営ができた。
打ち合わせも例年以上の回数を実施し、密に連携できた。
会場も、市民にとってなじみ深い市役所を使うことで、来場者が来やすい環境だったと思う。
前日の準備と当日の運営でも互いに協力できた。

【青梅市側】

会場として市役所西側駐車場および庁舎の一部を提供することで、多くの出店数等を確保できる。また、広報おうめ等を活用し周知を図るなど、市民へ広くPRができる。青梅ボランティア・市民活動センター登録団体を含め、地域の団体のPRの機会とすることができる。市内各種団体の活動状況などについて把握することができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

お〜ちゃんフェスタが、本来の目的のとおり、様々な背景を持っている方々が参加しやすい環境となっているのか、その点についてさらに議論を深めていきたい。

【青梅市側】

市民活動団体の紹介・交流、市民と市民活動団体のつながりづくりの場としての充実を図っていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 一般向けボランティア講座 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市社会福祉協議会（青梅ボランティア・市民活動センター） | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課市民活動推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 新たな市民活動・協働の担い手となり得るボランティア・社会貢献活動に興味を持っている市民にきっかけをつくること、そういった市民に青梅ボランティア・市民活動センター（通称：ボラセン）を知ってもらうこと。 |
| (3) 実施内容 | 講座名「ふみだそう！ボランティア活動の第一歩」 講師：青梅ボランティア・市民活動センター小林理人氏、和楽倶楽部代表相馬健一氏 対象：ボランティア活動に興味がある人（市民に限定せず） 参加人数：22名 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | ボランティアに興味がある人向けの入門講座を開催したいと考え、市内のボランティア活動の要であるボラセンへ協働を持ちかけた。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>広報、講師派遣、講座参加者のアフターフォロー</p> <p>【青梅市側】</p> <p>広報、参加者受付、会場手配</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

今回、ボランティアの方の体験談を交えることにより、講義の内容がより具体的にイメージできるようになったと考える。また、ボランティア団体ごとの紹介シートにより、参加者にとって有益な情報を与えることができた。さらに、周知においても、市から案内が行くことにより、広く行うことができた。

【青梅市側】

常日頃から多数のボランティア活動者・団体を支援しているボラセンと協働することにより、講座参加者の一部をボランティア活動への参加につなげることができた。講座参加者へボラセンの存在を周知することができた。ボラセンを通じてボラセン登録団体から会員募集情報等の提供を依頼し、収集した情報を講座参加者へ提供することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

より多様なボランティアの方からの体験談があると良いのかと感じた。

【青梅市側】

「協働によるまちづくり」を実現するため、市民活動団体向けの講座とは別に、活動に興味がある個人に向けての講座の重要性を実感している。ボラセン登録団体から情報提供を受ける中で、講座参加者に向け直接活動をPRしたいという声もあり、マッチングイベントの検討も行っていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------|------|-------|
| 事業名称 | 「おそきだより」の発行 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | おそきの学校と地域を考える会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課市民活動推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図る。 |
| (3) 実施内容 | 情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の把握。 令和6年3月に第41号を発行。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 平成24年度市民提案協働事業で採択された。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>企画、情報収集、編集、発行、配布</p> <p>【青梅市側】</p> <p>経費の負担、配布</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民側が主体となり地域情報を取得し地域発信を行うことで、地域状況の変化を市民目線で実施できるとともに、その情報が地域と行政に発信され、地域一体感の醸成や地域活動の推進につながっている。第七小学校150周年記念事業や地域の学校を大切に思う気持ちにもつながっていると感じる。

【青梅市側】

行政だけでは収集困難な、地域の情報や課題を掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

記事の収集、編集作業などにもっと多数の人が関わり、地域の仲間の主体性向上と発行予定日通りの発行につなげたい。
今後も地域の良さを含めた情報発信を行い地域住民の自己肯定感を向上させるとともに、地域課題を共有し改善につなげて行きたい。

【青梅市側】

創刊から10年以上が経過し、令和5年度は第41号の発行、と重ねてきた実績をもって他地域への波及効果を期待する。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--|------|-------|
| 事業名称 | 長淵市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 市長が委嘱する委員（第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学）、公募委員 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課長淵市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 長淵市民センターの効果的な活用を検討する |
| (3) 実施内容 | 市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市市民センター運営協議会設置要綱 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>センター運営全般について協議する</p> <p>【青梅市側】</p> <p>センター運営全般について協議する</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|---|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができる。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>委員との意見交換を通して地域との相互理解に役立っているとともに、市民センターにおける今後の運営へ反映することができる。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用についてについて考えていく機会にしたい。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>運営協議会の意見等を尊重しながら対応していきたいが、施設の改修等の予算化必要なものは協議会の意見が反映されにくくなっている。また近年の協議会では議題等が形骸化している。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos and descriptions |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 長淵地区文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 長淵地区文化祭実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課長淵市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。 |
| (3) 実施内容 | 長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果があり、市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。

【青梅市側】

利用団体や地域の団体、個人の活動や成果の発表する機会を提供するとともに、地域住民の交流の場となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

発表の場所等のより良い機会づくり、参加団体および入場者数の増加方法の検討。

【青梅市側】

参加団体が固定化しており、かつ、高齢化している。運営方法や参加者の増加の検討が必要。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 大門市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 第三支会、大門地区子供会育成会、市民センター利用団体などからの推薦者、第三中学校長、かすみ台第一保育園長、公募市民 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課大門市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民福祉の増進と地域社会の振興を図り市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活用する市民センターを目指し、各種団体から選出された委員の方々と意見交換を行い、地域の方々が利用しやすい市民センターにする。 |
| (3) 実施内容 | 大門市民センター2階会議室において令和5年7月20日および令和6年2月21日の2回開催し 会議録を提出 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置し、市民等に意見を求めている。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>センターが担う業務について報告を受けるとともに、意見の提示や提案を行う。老朽化が進む施設の改修・修繕などについて様々な提案を受け、令和6年度の予算要求に反映できた。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>協議会の事務局 センターが担う業務について、住民票等証明書発行業務や施設貸出状況、図書館利用状況 さらに令和5年度の新たな取り組みとして『ふれあい学級分室』、『涼み処』の開設、そして老朽化が進む施設の状況などを報告した。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 2 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

センターが行っている事業等の説明を聞き 利用する側の意見を伝えることができた。

【青梅市側】

多様な団体からの推薦を受けた委員と公募委員からなる協議会で、市民センターの業務や施設管理、行事などについて意見交換を行い、委員の持つ考え方を知る良い機会となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

令和5年度には『ふれあい学級分室』などの新たな取り組みも始まり注目している。

センターは地域の中心として防災対策の充実なども図っていただきたい。

【青梅市側】

市民センターの状況を細かく報告することが より多くの意見を聞くことに繋がるものと考えてるので 資料の作成方法などを検討したい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|------------------|------|-------|
| 事業名称 | 大門市民センター文化展 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 大門市民センター文化展実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課大門市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 大門市民センター文化展を開催し 大門市民センターで活動する団体（絵画、陶芸、絵葉書、水墨画など）や近隣小学校、地域に居住する市民の作品を展示し発表の場とする。 |
| (3) 実施内容 | 大門市民センター2階会議室において令和5年9月25日に実行委員会を開催し11月18日および19日に文化展を開催した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 大門市民センターを拠点として活動する団体（絵画、陶芸、絵葉書、水墨画など）の方々が作成した作品を展示する機会として大門市民センターが企画し 活動する団体等に呼びかけ地域の皆さんへの発表の場とするとともに 会員募集に繋げるとの考えから |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>文化展開催に当たっての実行委員会での意見交換や作品出展、準備、展示、来場者受付、あと片付けなど 多くの方々の協力を得て開催した。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>文化祭実行委員会事務局、会場準備、センターだよりで文化展の開催周知、学校および地域住民への作品募集</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

作成した作品を発表する機会があることにより 来場者の反応（作品の評価）を知ることが出来 今後の活動の糧となっている。

【青梅市側】

施設利用団体の活動内容を把握し 利用者との交流を図ることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

会員の高齢化や減少が進む中 活動する会員の募集に繋げる場として大いに活用させていただきたい。

【青梅市側】

活動する団体とともに たくさんの地域の方に来場いただけるよう取り組む必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 梅郷市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 梅郷市民センター運営協議会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課梅郷市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民や市民センター利用団体の代表の意見等を求め、市民センターの効果的な活用を目指し地域支援と協同の推進を図る。 |
| (3) 実施内容 | <p>梅郷市民センターにおいて年2回開催した。</p> <p>1回目 令和5年10月4日 2回目 令和6年3月6日</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅郷市民センターの関係事業 ・梅郷市民センターの利用状況 ・梅郷市民センター前年度決算、新年度予算 <p>意見提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員からの意見等は検討し対応。予算が必要な案件は予算積算して対応した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき梅郷市民センター運営協議会を設置した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>センターの運営全般について意見を出し検討、提案する。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>意見にもとづき今後の取り組みを検討、市民センター運営に反映できるように努める。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民センターの運営状況や市政を間近で知ることができ、意見をセンターに伝えることができた。

【青梅市側】

地域住民やセンター利用者からの意見を得る機会となり、市民センターの運営等について要望等を得ることができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

意見を出してもセンター独自の事業は限られてしまう。予算的にも限られて実現に時間がかかりすぐには反映されない。

【青梅市側】

報告等がメインになってきて議題が形式化してきているが、地域住民やセンター利用者からの意見を得る貴重な場となっている。
今後も意見や要望を伺い、市民センターの運営に反映させたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 梅郷地区総合文化祭実行委員会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 梅郷地区総合文化祭実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課梅郷市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。 |
| (3) 実施内容 | 梅郷市民センター利用団体や地域団体等の作品展示や交流を行った。 また、農協の協力により農産物の展示即売やキッチンカーによる食べ物の提供、青梅市公式キャラクターゆめうめちゃんの写真撮影会を行った。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 梅郷市民センター利用団体から発表の場を提供して欲しいとの提案があった。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭実行委員会での打ち合わせに参加する。 ・文化祭会場の設営および片付けをする。 ・展示作品の収集展示および撤収をする。 <p>【青梅市側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭実行委員会関係業務の遂行 ・文化祭日程の周知 ・展示に必要な物品等の準備 |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 日頃の活動成果発表の場ができてやる気のアップにつながった。
- ・ 他の団体の方と話ができて親睦の場となった。
- ・ 地域住民と久しぶりに会うことができ交流の場として効果があった。

【青梅市側】

利用団体の活動発表の場を作ることで活動に活気が出る。また、意見交換することができ効果がある。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 来年はより良い作品を展示できるように活動をする。
- ・ 活動発表の場として会場づくりを工夫する。

【青梅市側】

感染症等に注意しながら、参加団体および入場者数の増加を図り、活気があり楽しめる活動としていく。
体育館の入口で履物を履き替える作業は入口付近の混雑を伴い密になる可能性がある。
また、高齢者は転倒の危険性があるため、履き替えずに外履きのまま参加できるように工夫する。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 沢井市民センター運営協議会会議 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 沢井市民センター運営協議会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課沢井市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民から率直な意見や助言を受けて相互に議論し、より良い市民センターの運営を行うことを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 9月と3月、年2回会議を行い、センターの運営状況を報告している。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづき、沢井市民センター運営協議会を設置した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>沢井市民センターの運営について、意見交換および助言をいただく。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>沢井市民センター運営協議会の事務局であり、委員からの意見、助言をセンターの運営に反映する。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|---|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>協議回数は少ないものの、沢井市民センターを運営する行政側の考えを理解するとともに、意見、助言等を率直に伝えることができた。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>市民からの率直な意見、助言等を受けて相互に議論するとともに、より良い沢井市民センターの運営に向けて行政と市民相互の認識を一致することができた。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>市民としてもっと広い視点で議論を交わす必要がある。また、サービスを受ける側として、沢井市民センターの運営には、市民がもっと積極的にかかわっていくことが重要である。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>直接市民からの意見、助言等を受け議論する機会を確保することは、行政として重要であり、今後も積極的に市民の意見、助言等をお聞きし、議論する中で、より良い沢井市民センターの運営に繋げていく必要がある。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos and descriptions |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--|------|-------|
| 事業名称 | 三田地区総合文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市自治会連合会第5支会、清涼会（高齢者団体）、西東京農業協同組合二俣尾支店、沢井市民センター利用団体 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課沢井市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地域住民等の文化意識の向上と地域の活性化を図る。また、出品、出展、出演者等との開催協力などを通じて、住民相互のふれあいや、趣味、生きがい等の発見機会を提供する。 |
| (3) 実施内容 | 来場者数565人。出品、出展、演技披露等を通じて住民相互の交流が図られた。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 沢井市民センターを利用している各種団体等の作品・演技のほか、地域で栽培した農作物等の観賞および即売会等を通じて、多くの住民等がこの事業に参加するとともに、各種団体等の交流の場を提供し、地域の活性化に繋げる。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>主催者会議・事前説明会出席、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、会場片付け</p> <p>【青梅市側】</p> <p>主催者会議・事前説明会出席、会場・必要物品の確保、開催通知・広報、会場準備、進行管理、会場片付け</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

自主グループや地域住民の発表の場が広がることで活動の励みとなり、連帯意識も高まる。市民センター利用者間の交流に発展するきっかけとなる。

【青梅市側】

この事業を共催することにより、集客効果が大きくなるとともに、この事業を通して普段交流の少ないセンター利用者間の横の繋がりが期待できるほか、協働作業は、日ごろの市民との距離感を縮めることができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

少子高齢化が進む中、若い世代の参加および来場者を増やす工夫が必要である。

【青梅市側】

市民センター利用団体も高齢化が進んでおり、日ごろから子育て中の親子など、若い世代のセンター利用を促進する中で、利用団体の増加を促す必要がある。また、若い世代が興味を示す催しを取り入れていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 小曾木市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 自治会連合会第6支会、青少年委員、民生委員、市民センター利用団体、公募委員 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課小曾木市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 小曾木市民センターの運営を適正かつ効果的に行うため協議する。 |
| (3) 実施内容 | 小曾木市民センターにて令和5年8月4日、令和6年2月14日の2回開催、議事録を市民活動推進課に提出 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センターの運営と、地域の市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>地域の発展に向けて市民センターの在り方について検討する。</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

住民および施設利用者の意見や要望を伝えることができ、また運営状況も確認できた。また熱中症対策について聞いたところ、速やかに黒球式熱中症指数計を導入して、利用者に呼び掛けていることから効果を確認できた。

【青梅市側】

委員からの意見をもとに、市民センターの運営に反映させることができた。特に熱中症防止策についての提言を受け、黒球式熱中症指数計を導入して、市民センター体育館および運動広場の利用者に伝えることで、熱中症予防に対する注意喚起を実施することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

行政に対してさらなる情報提供により、利用者の率直な意見を反映できるかが課題である。

【青梅市側】

市民センターの独自事業が限られる中で、市民の意見を事業運営に反映できる余地が少なく、個々の市民センターに設置する必要性が薄いと考える。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | 小曾木地区文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 小曾木市民センター文化祭実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課小曾木市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民センター利用団体や地域住民、小・中学生、保育園児などのさまざまな創作活動や成果を展示することにより、市民との協働作業としての価値を高め、地域全体の連携とコミュニティの発展に貢献することを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 青梅市市民センターにて委員会を令和5年9月から11月にかけて4回開催し、地区文化祭と小曾木っ子まつりを合同開催とした。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 文化祭と小曾木っ子祭りの合同開催の協働は、地域ニーズの変化と過去の体験がきっかけで市側の提案により、前年度から開催した。このことにより、世代間交流が促進され、地域の連携を強化することができた。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>文化祭では、地域住民による作品の展示、地域の歴史や文化に関する写真展示、学校や保育園の児童・生徒によるアート作品の展示、中学校茶道部のお点前を行った。また、地区の農業祭農産物共進会では出品野菜等の展示販売を行った。</p> <p>小曾木っ子まつりでは、お囃子、おそきウインドアンサンブル青樹によるコンサート、劇団ころぼくるによる人形劇が披露され、また子どもたちを中心に楽しめるいろいろなあそびなどの体験コーナー、焼きそばやホットドックを提供するブース等を設けた。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備および片付け、公共の場所でのイベント開催許可、安全基準管理、衛生管理等を行った。また、広報活動、安全管理、イベント終了後の評価やフィードバックの収集を行った。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域住民の参加により、地域の方の創造力や才能を発揮する機会を確保することができた点が挙げられる。また、小曾木地区文化祭を通じて、地域の歴史や文化の継承と普及に貢献した。さらに、異世代間交流の場として、地域全体の共生と発展に寄与した。

【青梅市側】

地域住民が直接参加することで、恩恵を受けられる公共サービスを提供することができた。
また、協働は教育、環境保護、高齢化など多岐にわたり地域が直面する課題に対する創造的かつ実践的な解決策を見出す機会を提供し、これらの取り組みを通じて、持続可能な地域社会の現実に寄与する機会とすることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

地区文化祭をよりスムーズに進行させるためには、さらに充実した準備と計画、そしてスタッフの役割分担を明確化する必要がある。また、より広範な情報提供を行い、多くの参加者が集まる場としたい。

【青梅市側】

協働イベントの規模が拡大するにつれ、資金調達が難しくなる。公的資金だけでなく、民間資金の支援を検討する必要がある。また、多くの団体に関わる中で、目的の一致や役割分担の明確化が課題となる。地域住民がイベントに積極的に参加し、関与するための動機付けが常に課題であり、特に若年層や高齢者など、異なる世代の参加をどう促進するかがポイントとなる。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 成木市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 自治会連合会第七支会、成木地区防災対策委員会、スポーツ推進委員、青少年委員、施設利用団体、公募市民 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課成木市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 「市民福祉の増進と地域社会の振興を図るとともに、市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活動を展開する」という目的のためにある市民センターの効果的な活用を検討するため。 |
| (3) 実施内容 | 成木市民センターにて令和5年8月1日（火）および令和6年3月1日（金）の2回開催し、会議録は庁内へ提出。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき委員会を設置。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>成木市民センターを効果的な活用を検討するための意見交換および評価。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>成木市民センターを効果的な活用を検討していただくため、成木市民センター業務実績および予定の提示。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

独自の事業や通常業務について、説明および課題を詳細に聞くことができ、自由な意見や助言を言える状況にある。
利用者増や地域に貢献しようと努力する事務局の努力が感じられる。

【青梅市側】

地域団体や公募市民からの意見を直接いただくことで、効果的な運営につなげることができている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

運営協議会についての課題は感じられない。

【青梅市側】

課題は感じられない。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--|------|-------|
| 事業名称 | 成木地区文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 管内の自治会、成木保育園、成木小学校、成木小学校PTA、第七中学校、第七中学校PTA、農業者振興会、農産物共進会、市民センター利用団体、成木地域の文化活動実施者、成木地域の福祉施設 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課成木市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地域市民の交流やふれあいをより一層深め、その親睦を図る。 |
| (3) 実施内容 | 成木市民センターでの開催11月18日（土）、11月19日（日）に加え、実行委員会を8月3日（木）、10月12日（木）、1月23日（火）に開催。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 開始時期、開始のきっかけは不明。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実行委員会での協議、開催当日までの準備、当日の運営、片付。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>実行委員会の開催、行政側としての協議参加、開催当日までの準備、当日の運営、片付。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

各団体との年に一度の協働行事として定着している。
企画の段階から誰でも自由な意見を交わすことができている。
団体間の関係が良好になり、知人が増え、地域のコミュニティが育まれている。

【青梅市側】

地域住民や利用団体との良好な関係を築くことができる。また、住民間の交流も深まり、災害等の有事には、助け合い（共助）に大きな効果が期待でき、市など（公助）の負担軽減につながるものと考えられる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

課題は感じられない。

【青梅市側】

管内の面積が広いため、高齢者等の来場手段に課題がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 東青梅市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 自治会連合会第八支会、青少年対策第八支会地区委員会、青梅市スポーツ推進委員、青梅市青少年委員、東青梅老壮大学、東青梅健康体操クラブ、特定非営利活動法人青梅こども未来、女性防火防災の会第8支部 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課東青梅市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 東青梅市民センターの効果的な活用を検討するため。 |
| (3) 実施内容 | 市民センターの運営に関して必要な事項を協議する。東青梅市民センターにて年2回程度開催。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづき、市民等の意見を求めている。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>意見の提示、意見交換、評価など。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事務局、行政側としての意見交換、今後の取り組みの検討。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

行政に対し、利用者の視点から意見や要望を伝えることができた。

【青梅市側】

市民の代表から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

東青梅1丁目地内諸事業用地等利活用構想に関しては、東青梅市民センターが移転される可能性についての期待等、関心が高い。また、体育館の雨漏りについては、避難場所としても使用することから早急に修繕を要望する。利用者の声を反映したものとなるよう運営に関わっていくことが必要と思われる。

【青梅市側】

市民の意見等を伺い、議論する中で、より良い市民センターの運営に繋げていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------------|------|-------|
| 事業名称 | 東青梅市民センターコミュニティ文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 自治会連合会第八支会、小・中学校、各種団体 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課東青梅市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦を図る場として、また、広く地域市民の見学等の参加を通して、地域の文化活動や仲間作りを図っていくことを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 作品展示や発表など |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民相互の親睦を図り、地域の文化活動や仲間作りを図っていくことを目的とするため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>作品展示や発表</p> <p>【青梅市側】</p> <p>運営など</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 5 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

活動発表の機会を得て、来場者に活動の成果を見てもらうことができた。
地元自治会がパネルの配置や片付けの役割を分担した。これにより、高齢化している団体の会員の負担が、軽減された。

【青梅市側】

施設利用団体の組織の現状把握と活動内容を把握することができ、なおかつ、団体との交流も図ることができた。
また、地元自治会の会員の文化活動の状況を見ることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

団体の会員の高齢化と会員数減少があり、活動の継続が危ぶまれるような団体も増えているため、活動発表の場兼会員募集の場として利用する。

【青梅市側】

作品数や作品のサイズが事前にわかると、どの程度パネルを用意すればよいかわかり、不必要なパネルの枚数や机を用意しなくてよくなり、作業が効率化する。また、遠方の方も来場できるよう駐車場の確保および周知も必要である。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 第八支会ささえあいフェスティバル | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 自治会連合会第八支会、小・中学校、NPO法人、青梅市社会福祉協議会、青少年対策第八支会、交通安全協会第8支部、東青梅地区環境美化委員会など | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課東青梅市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地域のさまざまな団体との連携を図り、地域の活性化につなげる。 |
| (3) 実施内容 | 地域の小中学生や保育園児の作品展示、第八支会および各種団体の活動紹介、自治会加入促進PR活動、地域ボランティア団体による作品展示や販売、地域団体の演技披露、野菜即売会、シールラリーなど |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 地域のさまざまな団体との連携を図り、地域の活性化につなげることを目的のため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>出店や出し物、演技披露など</p> <p>【青梅市側】</p> <p>運営やとりまとめなど</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 5 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

各自治会や地域の団体の活動内容など、多くの来場者へ周知することができた。

【青梅市側】

東青梅市民センターコミュニティ文化祭と同時開催をすることにより、会場設営や片付けとの労力を効率的に運営でき、なおかつ、協働相手にサポートしてもらうことができた。また、多くの観覧者も来場していただけた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

この事業を継続することにより、自治会への加入促進につなげていきたい。

【青梅市側】

当日の天候により、レイアウトを変更できるように調整したり、参加事業内容を精査し改善点を検討することにより、参加団体の数を増やすとともに、より魅力ある事業になるよう努めていきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 新町市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市自治会連合会第九支会、青少年対策新町地区委員会、青梅市スポーツ推進員、小学校PTA、中学校PTA、利用団体代表、市民公募 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課新町市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討 |
| (3) 実施内容 | 市民センターの利用状況、施設整備状況、センター実施事業等について報告・協議を行うとともに、センター文化祭の実施計画及び役割分担等について協議する。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民センター運営協議会設置要綱 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>市民センターの運営について検討・協議するとともに、実行委員会の中心として、センター文化祭について企画運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>センター事業の実施状況について報告するとともに、必要な情報の提供に努め、運営協議会での協議検討結果を運営に生かす。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域住民や施設利用者の意見を行政（新町市民センター）に伝え、センター運営に生かすことができた。

【青梅市側】

市民センターの事業運営について、地域団体や利用団体からの様々な意見、要望を聞くことにより、センター運営に資する貴重な意見を聞くことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

これまで以上に便利かつ利用しやすい市民センターとなるよう、意見要望していくとともに、具体的な改善策などさらに積極的に運営に関わっていくことが必要と思われる。

【青梅市側】

近年協議会がやや組織運営が形式化してきていると考えられる。各市民センターごとの設置の必要性も含めて検討すべきである。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | 新町末広町地区市民文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 新町末広町地区市民文化祭実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課新町市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 新町市民センター利用団体などの文化活動の発表の場として、またふれあいの場として文化祭によりセンターに来館し、活動することにより、地域住民の交流による地域コミュニティの活性化を図る。 |
| (3) 実施内容 | 参加団体20団体、体育館入場者 2日間合計775人 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備をする。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効であるとともに、文化祭に参加することにより地域と団体との交流が広がる。

【青梅市側】

地域住民の自主的な運営により、事務局がさほどかかわることなく、事業が柔軟かつ円滑に実施されている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

来場人数が減ってきている。より人を呼べる企画運営を検討する必要がある。

【青梅市側】

一部マンネリ化している。また、コロナの影響も続いてか来場人数が減っている。人を集められる企画や新規団体の開拓を行うとともに、新たな視点による実施等が求められる。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 河辺市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 河辺市民センター運営協議会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課河辺市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 運営協議会を設置し委員の意見を求め、市民センターの効果的な活用を検討する。 |
| (3) 実施内容 | 河辺市民センターにて運営協議会を令和5年6月および令和6年2月の2回開催し、施設利用状況や設備改修予定などを報告し委員の意見を求めた。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづく |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>市民センターの効率的な活用方法の提案、協力</p> <p>【青梅市側】</p> <p>会場準備、日程調整、資料作成 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用する。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 2 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 2 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|--|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>協働のメリットである対等な立場で話し合いをすることができ、いろいろな意見を出すことができた。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>市民センターと地域住民、市民センター利用者との交流・意見の場となり、それぞれが対等な立場で議論することにより、市民センターの効率的な運営に役立った。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>対等な立場で話し合いができるのはいいことだが、施設の改善や予算を伴う案件の話になると見送りになることが多く、協働事業としての効果が薄いように感じた。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>委員よりいただいた意見が市民センターの効率的な運営に役立つ半面、施設の改修など予算を伴う案件については反映されないことが課題である。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos or descriptions of the project |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|------------------|------|-------|
| 事業名称 | 河辺市民センター文化祭 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 河辺市民センター文化祭実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課河辺市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や部隊発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。 |
| (3) 実施内容 | 河辺市民センターの利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 河辺市民センターで活動中のサークルの発表の場として文化祭を協働で実施してはどうかと市側から提案 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>作品出展、演技披露、会場準備、片付け、来場者受付、駐車場管理</p> <p>【青梅市側】</p> <p>参加団体呼びかけ、日程調整、会場確保、展示用資材や音響設備等の提供、プログラム作成、許認可申請手続き、広報</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民センターを利用する団体や自治会などで組織された文化祭実行委員会形式を取り入れてることにより、文化祭開催に向けて対等に意見を出し合うことができた。

【青梅市側】

場を提供することにより、利用者とのコミュニケーションが図られた。市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

実行委員会のメンバーが高齢化などにより、力仕事を伴う準備、片付けなどが負担であると感じた。

【青梅市側】

参加団体、地域住民参加がコロナ渦をはさんでやや減少傾向にあること。参加団体のメンバーの高齢化などにもよるが、開催日数の変更など参加団体への負担軽減を図っていく必要を感じた。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 今井市民センター運営協議会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 今井市民センター | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課今井市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議するため。 |
| (3) 実施内容 | 今井市民センターにて委員会を令和5年7月5日および令和6年2月22日の2回開催。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 今井市民センター運営協議会設置要綱による。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>市民センター運営のあり方を協議・検討する。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運用に活用する。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。また、市民センターの運営状況等を理解することができた。

【青梅市側】

市民センターの運営状況について、理解いただくとともに、市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

行政の報告等を踏まえ、センターの運営について利用者の率直な意見や要望を伝える。

【青梅市側】

当協議会は報告がメインとなり、議題が形骸化している部分がある。市民センターのあり方等について、地域の意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|------------------|------|-------|
| 事業名称 | 今井市民センター文化展 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 今井市民センター文化展実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課今井市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げさらに深めることを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 市民センター利用団体などの4団体の作品（切り絵、書道、陶芸、トールペイント）展示の他、今井市民センターの紙すき・染色体験教室、ささえ愛本舗ちょこっと霞、明るい選挙推進協議会のコーナーを設けた。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 利用団体の活性化を図るため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会の協力を得ながら各団体で会場を設営する。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>会場の確保と展示用具等を提供する。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

活動発表の場を協働で行うことによって、より多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。また、地域住民の交流の場としての効果がある。

【青梅市側】

施設利用団体の活動の把握と交流が図れる事業である。市民センターの存在を参加団体や出品者を通じて広く市民に周知できるので継続的に実施していくことが望ましいと考える。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・参加団体が少なくなってきたので増やすことが課題。
- ・文化展2日目は、ふるさと祭りと同時に開催となりたくさんの方が来場するが、終了時間が予定より早まってしまったため、開催時間についての調整が課題。

【青梅市側】

参加団体の減少が課題。今回は市民センターで行った体験教室の作品を出展できたが、より多くの団体の参加ができるよう環境づくりを図る。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 市民ウォーキング | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市自治会連合会第11支会 | | |
| 担当課・係 | 市民活動推進課今井市民センター | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民の体力増進、健康保持を目的に霞川遊歩道を中心に歩き、地域の名所旧跡で歴史に触れ、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。 |
| (3) 実施内容 | 今井市民センターを出発し、今井城址、薬王寺、霞川遊歩道、藤橋城址へと歩き（約5.2km）、休憩等を含めて約2時間20分で市民センターへ帰還する。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民の体力増進、健康保持と合わせて地域の連携と異年齢層の交流、親睦を図るため第11支会を中心に参加者が集い、地域と住民相互の親睦を深める。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式・閉会式の進行、ウォーキング中の運営等。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>コースの検討と資料等の作成、消耗品の購入、準備品の用意等。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民の体力増進や健康保持と合わせ参加者相互の親睦が図れる。

【青梅市側】

本事業は、行政と地域、地域間の親睦と協力を深めることができる事業であり、参加も容易なので、継続的に実施していくことが望ましいと考える。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ より多くの市民の参加が課題。
- ・ より魅力ある新たなコースの検討。

【青梅市側】

- ・ より多くの市民の参加が課題。
- ・ より魅力ある新たなコースの検討が課題。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------|------|-------|
| 事業名称 | おうめ環境フェスタ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | おうめ環境市民会議 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと |
| (3) 実施内容 | 市内市民団体によるパネル展示および市内図書館内における環境関連図書コーナー設置（6月） 基調講演の実施（9月11日） おうめ環境マップの作成・配布（10月～2月末） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 平成20年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と広報等のメディアによる募集、会場・事業予算の確保等</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

・事業内容の啓発広報が、市民・行政の相互の領域を共有することで広域化され、新しい事業「環境マップ」の誕生につながった。・新型コロナ禍の中で、環境パネル展、基調講演、自主ワークショップの実施など環境フェスタの年間スケジュール化という新しい事業体を生んだ。

【青梅市側】

コロナ前に実施していた1点集客型の事業を見直し、年間を通した環境啓発事業として実施することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

・行政と市民会議との協議の場を年間2回は設定すること。・年間スケジュールの中で、市民会議の会員募集をアピールする。・市の年間の環境活動をまとめたパンフレットが欲しい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------|------|-------|
| 事業名称 | 環境ニュース | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | おうめ環境市民会議 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。 |
| (3) 実施内容 | 紙面の構成や内容について協議をし、12,000部発行した。公共施設や市内の小中学校に配布した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 平成19年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>記事の作成</p> <p>【青梅市側】</p> <p>記事の作成、レイアウト原案、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 2 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・行政組織の意向ににとらわれず、企業や団体との利害関係の無い市民の立場から、環境教育に必要な内容を提案することができる。
- ・行政という公の立場から市内の全小中学校児童に配布することで団体組織の意向や利害関係が無い内容であることが認識される。
- ・児童が家庭に持ち帰ることで家族にも閲覧の機会が得られる。

【青梅市側】

身近な環境問題について小・中学生にも考えてもらう機会になったと考える。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

・環境教育は、生活のための活動全般とその多くを占める経済活動を環境配慮型で持続可能な形にしていくためのものと考えます。子どもや経済的弱者(一次産業・途上国の生活者)にばかり行動変革を促すのはパワハラです。経済活動に主導権のある大人、経営者・巨大資本・地方自治体・国が、当面お金になることよりも、自然環境を維持し豊かさを継続する取り組みに価値を置くようになることが本当の環境教育の目標と考えます。青梅という自然環境と人の営みが共に大きな規模で接している現場から広く伝える工夫がまだ足りません。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | クールビズ運動 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市環境連絡会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課ゼロカーボンシティ推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上 |
| (3) 実施内容 | 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>クールビズの実践</p> <p>【青梅市側】</p> <p>企画と啓発物品（卓上のぼり旗）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。

【青梅市側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。

【青梅市側】

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

地球を冷やそう！地球温暖化対策実施中！
クールビズ&打ち水に参加しませんか？

クールビズで夏を快適に！

クールビズは室温28℃でも快適にすごせる
ライフスタイルのことです！
空室の上昇防止には、よしずやブラインドのほか、植物でつくる
『みどりのカーテン』で日差しをさえぎることも有効です。

打ち水で夏を涼しく！

打ち水も温度を下げる工夫のひとつ！
ご自宅でも、いろいろな場所で実践してみてください。

打ち水ウィーク
7月22日(土)～7月28日(金)
打ち水は、周辺に注意して行いましょう！
靴やタタミに行くと効果があります！

青梅市 環境政策課 環境対策推進係 0286-52-1111 (9時～16時)

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | みんなで打ち水！ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市環境連絡会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課ゼロカーボンシティ推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上 |
| (3) 実施内容 | 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>打ち水の実践</p> <p>【青梅市側】</p> <p>周知活動（ポスター掲出、広報等のメディア展開）</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。
打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとりの環境意識向上を図りたい。

【青梅市側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。
打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。

【青梅市側】

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

地球を冷やそう！地球温暖化対策実施中！
クールビズ&打ち水に参加しませんか？

クールビズで夏を快適に！

クールビズは室温28℃でも快適にすごせる
ライフスタイルのことです！
空室の上昇防止には、よしずやブラインドのほか、植物でつくる
『みどりのカーテン』で日差しをさえぎることも有効です。

クールビズの服装にこだわらなくても大丈夫。部屋を暑く感じたら、こまめにエアコンを稼働させてください。
『暑さのせいり』を上手に活用してください。

打ち水で夏を涼しく！

打ち水も温度を下げる工夫のひとつ！
ご自宅でも、いろいろな場所で打ち水をしてみてください。

打ち水ウィーク
7月22日（土）～7月28日（金）
打ち水は、周辺に注意して行いましょう！
車やタタリを行うとより効果があります！

風船の残り風や雨水などの
再利用でさらにエコ！

問合せ先 青梅市環境対策課 0286-42-1111（9時～17時）
〒201-8501 青梅市 青梅市

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | ウォームビズ運動 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市環境連絡会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課ゼロカーボンシティ推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上 |
| (3) 実施内容 | 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事業所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組みを実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 環境問題に関する広範な取組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ウォームビズ運動の実践</p> <p>【青梅市側】</p> <p>企画と啓発物品（卓上のぼり旗）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|--|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。

【青梅市側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民一人ひとりが環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品（卓上のぼり旗）やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。

【青梅市側】

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品（卓上のぼり旗）やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

地球温暖化防止のため、冬も省エネ！
ウォームビズ&エコドライブにご協力を！

ウォームビズで冬も快適！

日中はブラインドやカーテンを開放し、窓から差し込む太陽の光をたっぷり取り入れて部屋を暖めましょう。
毛足の長い座布団やひざ掛けなど、手軽な保温アイテムを使うことも効果的です。

ウォームビズの標榜にご賛同いただける方、個人・企業・団体様にご協力ください。
「卓上のぼり旗」を差し上げます。

エコドライブで地球に優しい運転を！

節電のためにエアコンを暖房で運転しましょう。
必要のない荷物を乗せることも燃費向上に効果的。
運転される際は、ゆっくり運転をお願いします。
毎日の暮らしがエコドライブへの第一歩です！

エコドライブの標榜にご賛同いただける方、個人・企業・団体様にご協力ください。
「エコドライブステッカー」を差し上げます。

問合せ先 青梅市環境政策課 エコドライブ推進課
0266-22-1111（内線2255）

青梅市

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | エコドライブ運動 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市環境連絡会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課ゼロカーボンシティ推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上 |
| (3) 実施内容 | 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>エコドライブ運動の実践</p> <p>【青梅市側】</p> <p>企画と啓発物品（ステッカー）の配布、広報等のメディア展開</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとりの環境意識向上に役立てたい。

【青梅市側】

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

エコドライブは決まった10項目の取り組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。


【青梅市側】

エコドライブは決まった10項目の取り組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

**地球温暖化防止のため、冬も省エネ！
ウォームビズ&エコドライブにご協力を！**

ウォームビズで冬も快適！




日中はブラインドやカーテンを開け、窓から差し込む太陽の光をたっぷり取り入れて部屋を暖めましょう。
毛足の長い座布団やひざ掛けなど、手軽な保温アイテムを使うことも効果的です。

ウォームビズの標榜にご賛同いただける方、個人・企業・団体に随時ご登録ください。
「床のほり鼠」を差し上げます。

エコドライブで地球に優しい運転を！

節電のためにエアコンを暖房で稼働しましょう。
必要のない荷物をあずさることも燃費向上に効果的。
運転される際は、今すぐ車検で合格です！
毎日の暮らしがエコドライブへの近道です！



エコドライブの標榜にご賛同いただける方、個人・企業・団体に随時ご登録ください。
「エコドライブステッカー」を差し上げます。

エコドライブは交通安全にもつながります。

問合せ先 青梅市環境政策課 エコカー・エコドライブ推進課
0266-22-5111（内線2255）

青梅市

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--------------------|------|-------|
| 事業名称 | みどりのカーテン事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上 |
| (3) 実施内容 | 令和5年度は市内の一般家庭および事業者46件を対象とするみどりのカーテンモニターへのゴーヤの苗の配布を実施した。また、一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施した。（個人部門23件、団体部門16件の応募） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>副賞代の提供および審査協力</p> <p>【青梅市側】</p> <p>周知活動（広報・ホームページ）および受付等の事務</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 2 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 1 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

特になし

【青梅市側】

みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、青梅産業観光まつりにおける表彰式を含め、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。受賞作品選定において、青梅ガス株式会社およびＪＡ西東京の専門家の審査協力を得られたことが事業を充実させるものとなった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

・ 企画のマンネリ化 ・ 審査基準 ・ 副賞の見直し

【青梅市側】

みどりのカーテンコンテストでは、団体部門の参加者が前年度の12件から16件に増加した。また、みどりのカーテンモニター配布については、大型連休でみどりのカーテンを植え付けることが考えられるため、大型連休前の配布を実施し、多くの方にモニター参加いただけた。ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、環境に対する意識啓発の1つとして継続して取り組んでいきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅、多摩川水辺のフォーラム | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 川での安全な遊び方教室、魚のつかみどりから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

水辺の探検隊では毎回、先戸池での魚の捕獲を行っているが、先戸池の入り口、池の台地部分に草が生い茂っている状況となることが多い。令和5年度も、環境政策課ご担当と相談して草刈りをお願いした。
また、実施報告書は水辺のフォーラムで作成するが、環境政策課ご担当の方にチェックして頂き、一部の文言の修正を行って頂いた。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

特にありません。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------|------|-------|
| 事業名称 | 多摩川まるごと遊び塾 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅、多摩川水辺のフォーラム | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館（多摩川に棲む魚等の展示や解説）。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

環境政策課ご担当と相談して以下を実施。当初予定の7月28日は安全面を考慮して延期とした。翌週から猛暑が続き、8月3日も熱中症の心配が出てきたので、以下も実施。

- ・ホームページにて熱中症対策のための依頼事項を記載して参加予定者に周知。
- ・早めの水分補給のために給水タイムを設定。
- ・参加者持参の水が足りなくなる可能性があり、急遽ウォータージャグを準備。

結果的に、誰もケガせず、熱中症になることもなく終了することができた。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

特にありません。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------|------|-------|
| 事業名称 | がんばれ！あゆっ子2023 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NPO法人奥多摩川友愛会 | | |
| 担当課・係 | 環境部管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。 |
| (3) 実施内容 | 稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメ、ニジマスのかみ取り |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 2 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

行政との協働事業を行なうことで、イベントの信頼性などが高まり、より市民と主催団体との距離が近くなるように思う。
近年の情報過多時代においては参加者が良い情報を得て参加できるには有効な手段で有ると考える。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

マニュアルを作成し後世でもこれを行なっていく人に伝えていきたい。
協働の信頼性が高まっていくなかで、それを受け継いでいく若い世代が居ないというのが各団体の悩みと思う。
行政による市民への各団体の推薦、紹介、会員募集を市の取り組みの中で行なって後継者を育てたい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------|------|---------|
| 事業名称 | 第 1 5 回炭焼き体験と水辺の交流会 | 実施年度 | 令和 5 年度 |
| 協働団体の名称 | 美しい多摩川フォーラム | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。 |
| (3) 実施内容 | 竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成 2 0 年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成 2 3 年度から開始した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業のプランニング、NP0 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

青梅市共催事業ということにより市民は安心して申込された。「広報おうめ」に募集記事が掲載されると早々に定員超過となり、キャンセル待ちが出るほど相変わらずの人気ぶりであった。当日は、ライフジャケット・ヘルメットの貸し出しをはじめ、スタッフの一員としてニジマス・ヤマメを焼いていただくなど全面的にご協力いただき、協働による効果は絶大であった。

【青梅市側】

内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き窯を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

事故が発生しないように、安全には万全を期しておりますが、経験のある指導員を十分に確保し、最新の注意を払って臨みたい。発生したゴミについては、各自持ち帰りを徹底し、引き続きゴミの少量化に努めていく。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------|------|-------|
| 事業名称 | お魚釣りを楽しもう | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 霞川くらしの楽校 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。 |
| (3) 実施内容 | 魚釣り・釣った魚の観察・解説 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 通年の様々な川遊びを子どもたちに継承したいとの提案があり、実施した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

開催場所には葎を始め雑草が繁茂しており、安全を図るために伐採する必要があることから河川管理者経由外部業者への伐採依頼をおこないます。。また受付など管理道路の一部を使用しますが、散歩、ウォーキング、ジョキングをされている方々に一時的に迷惑を掛けます。また、周辺の畑で農作業をされている方々にご迷惑を掛ける場合もあるかも知れないので事前に事業開催のあることを伝えますが、協働事業ということで皆さん快く協力してくれます。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

「広報おうめ」で募集を行いますが、募集する事業がどんなものか、その内容を知ることによって興味をそそられるのではないかと。「事業の内容が分かる」ような文々を入れるスペースが欲しい。 又委託金は事業終了後の支払いになるが、調達するのは、事業開始以前の時点であり、すべて持ち出しになります。会は利益を求める活動をしている訳で無く手持ちの軍資金に厳しく一時的に個人が立て替えています。出来れば前渡金として委託金の半分でも良いので支払いがあるとたすかります。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 親子魚釣り教室2023「青梅に棲むお魚は？」 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NPO法人奥多摩川友愛会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。 |
| (3) 実施内容 | 溪流釣りの未経験の参加者に、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|--|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>行政との協働事業を行なうことで、イベントの信頼性などが高まり、より市民と主催団体との距離が近くなるように思う。 近年の情報過多時代においては参加者が良い情報を得て参加できるには有効な手段で有ると考える。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>もう少し教育的な内容を参加者に伝えたい。魚を釣ることに参加者の興味が集中しこちらから知ってもらいたい事柄が伝え切れていない。（釣るだけでは殺りくを教えているようで心苦しい） 協働の信頼性が高まっていくなかで、それを受け継いでいく若い世代が居ないというのが各団体の悩みと思う。行政による市民への各団体の推薦、紹介、会員募集を市の取り組みの中で行なってもらい後継者を育てたい。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>特になし。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos and descriptions |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | 飼い主のいない猫のための「里親会」 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | おうめ猫の会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 責任をもって猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。 |
| (3) 実施内容 | 例年ボランティア団体との協働事業として里親会を実施 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 団体等からの提案 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>当日の運営</p> <p>【青梅市側】</p> <p>広報等による周知、会場準備</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 行政とボランティア団体の意思疎通が大変うまくいっている。

【青梅市側】

ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業のPRを市民に効果的に行うことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ カインズでの合同里親会の是非。
- ・ 担当者が数年で変わることの弊害。

【青梅市側】

今後、他のイベントの会場内で里親会を開催することについて協働団体と協議を行い、里親会の継続と来場者の増加を図りたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 動物愛護週間イベントinおうめ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | おうめ猫の会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。 |
| (3) 実施内容 | 動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示会の実施 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 平成24年度から新たな協働事業として提案があった。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>活動紹介等に関する展示ブースの設営</p> <p>【青梅市側】</p> <p>広報などによる周知、会場準備</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 市民に対する啓蒙

【青梅市側】

ボランティア団体と共同で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、団体の活動内容も紹介することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 猫のブースの場所の検討
- ・ 猫行政の宣伝不足

【青梅市側】

動物愛護に関する講演会または映画会の内容については、市民がより関心を持てるものを選定する必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------|------|-------|
| 事業名称 | さくらねこ無料不妊手術事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | いのちを考える会・青梅 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫の捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。 |
| (3) 実施内容 | 手術実施頭数 33頭 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す</p> <p>【青梅市側】</p> <p>公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

TNR活動は、ここ数年とてもスムーズになった。市役所が市民対応を的確に行っているお陰だと思う。

【青梅市側】

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。また、飼い主のいない猫を見かけることが減少しているように見受けられる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

ボランティアが高齢化しているのでTNR活動の担い手が不作している。一般市民にこの活動を認知してもらい、促していくことが大切と考える。

【青梅市側】

市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対しても、餌やりの方法や地域猫活動等と併せて広報等を活用して継続して周知するよう努めたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------|------|-------|
| 事業名称 | さくらねこ無料不妊手術事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | おうめ猫の会 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。 |
| (3) 実施内容 | 手術実施頭数 10頭 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>猫の保護、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す</p> <p>【青梅市側】</p> <p>公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 野良猫の減少

【青梅市側】

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への問い合わせが減少した。また、飼い主のいない猫を見かけることが減少しているように見受けられる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 通院の人員の確保

【青梅市側】

市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対しても、餌やりの方法や地域猫活動等と併せて広報等を活用して継続して周知するようにしたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------|------|-------|
| 事業名称 | 生物多様性人材育成講座 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 美しい多摩川フォーラム | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 平成30年度に制定した「青梅市生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、次世代のリーダー育成を目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 令和5年8月3日に青梅市役所2階201、202会議室にて、生物多様性に関する育成講座を開催。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 平成30年度に制定した「青梅市生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、市から市民団体に協働提案した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>講師の提供。講演資料の作成。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報、小学生向けチラシによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

事業実施に際し、当フォーラムより講師を紹介し、当フォーラムの会員に講座内容を告知するなど、役割分担を明確にして連携することができた。「広報おうめ」に募集記事を掲載することにより集客につながった。

【青梅市側】

コロナ禍で参加者は少人数であったが、子供たちの生物多様性について考えるきっかけになれたことに意義があったと言える。

(2) 今後の課題および改善事項など

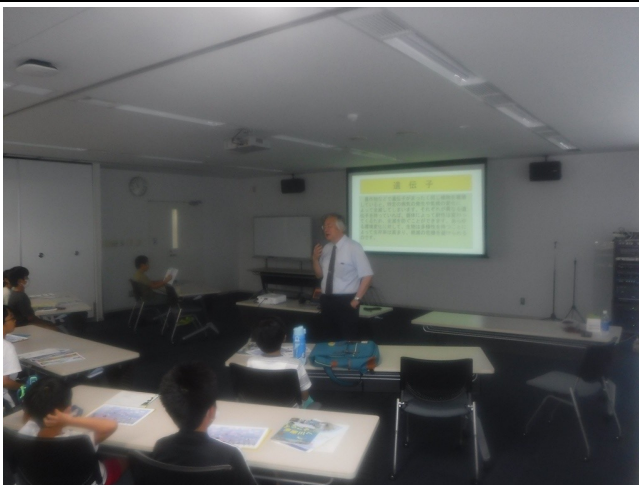
【協働団体側】

初めて受講する小学生には有意義であったと考える。同一内容で回数を増やしていくのか、シリーズ化してさらに内容を充実させていくのか等、検討していく必要がある。

【青梅市側】

例年実施するにあたり、いくつかテーマを設ける等の工夫が必要。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------|------|-------|
| 事業名称 | 霞川で遊ぼう | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 霞川くらしの楽校 | | |
| 担当課・係 | 環境政策課管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。 |
| (3) 実施内容 | 川遊び（魚・昆虫採集・採った生物の観察・散策） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 通年の様々な川遊びを子どもたちに継承したいとの提案があり、実施した。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

① 募集が「広報おうめ」でインパクトがある。②事業遂行には外部の協力が
必要（安全対策の為に会場周辺の草刈り・近接農家への挨拶）であるが、市と
の協働事業と言うことで快く協力してくれる。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実
したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

応募人数が減ってきている。募集は「広報おうめ」で行っていますが、募集する事業がどんなもの
か、その内容を知ることによって興味をそそられるのではないかと。募集時短くても良いが「事業
の内容が分かる」ような文々を入れるスペースが欲しい。又委託金は事業終了後の支払いになる
が、調達するものは、事業開始以前の時点であり、すべて持ち出しになります。会は利益を求める
活動をしている訳で無く軍資金はあまり無い。一時的に個人が立て替えておく場合がある。出来れ
ば委託金の半分でも良いので、前渡金の形で支払っていただけるとありがたい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------------|------|-------|
| 事業名称 | 「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅点訳グループ | | |
| 担当課・係 | 清掃リサイクル課ごみ減量推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 視覚障がい者等のうち、点訳された「資源物・ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。 |
| (3) 実施内容 | 令和6年度版「資源物・ごみ収集カレンダー」の点字版の作製（窓口用の全地区分1部、希望者用の3部）、視覚障がい者等への周知、希望者3名への配布。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 団体等からの提案。資源物・ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>点字版の資料を作製し、行政側に提供する。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

希望する人に、期限までに作成し、届けることができた。

【青梅市側】

点訳を行うには専門的な知識も必要となることから、点訳を専門とするグループとの協働は大いに効果がある。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

より多くの方に利用していただけるよう、点字図書利用者等に点字版カレンダーの存在を知らせることはできないか？

【青梅市側】

「資源物・ごみ収集カレンダー」の配布について広報おうめでしか周知ができていない。必要な方がもう少しいるのではないかとと思われることから周知の場の拡大が課題である。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 大塚山いこいの森ボランティア | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | いこいの森を育てる会（近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区委員会） | | |
| 担当課・係 | 公園緑地課わくわく公園係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・大塚山いこいの森の緑豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出すること。 ・大塚山いこいの森を市民の自然体験および学習の場として活用すること。 |
| (3) 実施内容 | <p>令和6年1月20日（土）に大塚山公園隣の青梅市立第四小学校体育館にて、「ネイチャークラフト教室（自然の素材を使った工作体験）」を実施。</p> <p>※当初は大塚山公園内にて樹木への樹名板の取付を予定していたが、雨天により内容を変更した。</p> |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 大塚山いこいの森を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つため、いこいの森を育てる会（構成団体：近隣5自治会・青梅四小PTA・青少対第8地区委員会）と管理協定を締結したことによる。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>活動に対する提案や意見の提示、参加者の動員</p> <p>【青梅市側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画立案、協働団体への提案、意見交換 ・事業の主催 |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 2 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 2 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

ボランティアと協働で自然に親しむ作業体験が実施でき、市民の自然体験や学習の場として提供することができた。また、体験には、親子の方も多く参加している状況から、大塚山いこいの森を身近な場所として捉えていただいていると感じた。

【青梅市側】

作業を共同で行うことにより、市民の大塚山いこいの森や自然への親しみが生まれること。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

下草刈り作業という体を動かす作業から、樹名板の取付、ネイチャークラフト教室といった体験型の事業へと方針転換し、多くの親子の参加があったことから、今後もこうした要素を取り入れた実施内容とし、より多くの市民に参加してもらえる取り組みとすることが望ましい。

【青梅市側】

一層多くの参加をいただけるよう、周知方法を工夫すること。
また、事業が形骸化とならないよう、市民が継続として参加していただける実施内容の中長期的に企画していくこと。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--------------|------|-------|
| 事業名称 | 緑地管理ボランティア | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 緑地管理ボランティア | | |
| 担当課・係 | 公園緑地課わくわく公園係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことによって公園等の大切さを実感しつつ、行政と一体となって公園・緑地の利用推進ならびに緑の保全および育成を図るとともに、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ること。 |
| (3) 実施内容 | 令和6年1月20日：大塚山いこいの森隣接の青梅市立第四小学校体育館で「ネイチャークラフト教室（自然の素材を使った工作体験）」の開催補助 令和6年3月1日：青梅市役所にて意見交換会（参加者、公園緑地課）実施…今後の活動方針に関する意見交換 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 公園の整備により施設が充実し、公園として「成熟した状態」となったことから、今後の公園整備を地域コミュニティやボランティアとの連携により実施する方針としたこと。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案、意見交換、評価 ・事業への参加、作業の実施 <p>【青梅市側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画立案、提案 ・ボランティア事業の運営 |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 2 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 2 | 2 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 2 | 2 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 3 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

大塚山いこいの森ボランティアにおける「ネイチャークラフト教室」の開催補助を実施することにより、子供達に公園や自然への親しみを持つきっかけ作りの一助となった。

【青梅市側】

市民に公園・緑地への親しみを深め、緑化推進や環境保全への理解を深める機会を提供できたこと。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

令和2年度より新型コロナウイルスの影響により活動を中止しており、戦術の「ネイチャークラフト教室」の開催補助が再開の第一弾となった。
令和6年度は本格的に活動を再開し、公園・緑地の下草刈りや樹木の整備作業を実施し、快適な公園の環境を創りあげていきたい。

【青梅市側】

令和5年度は新型コロナウイルスによる活動休止からの再開第一弾として、「大塚山いこいの森ボランティア」事業に内包する形での実施であった。
令和6年度は本格的に再開させ、公園・緑地の整備作業を協働で実施していきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--|------|-------|
| 事業名称 | 青梅の森保全プロジェクト（青梅の森保全事業） | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅の森保全プロジェクト協力団体（西多摩自然フォーラム、森林ボランティア 森守会、NPO法人 青梅林業研究グループ、日本野鳥の会奥多摩支部、青梅さとやま散歩の会、青梅の自然と環境を守る会） | | |
| 担当課・係 | 公園緑地課みどり推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 青梅の森およびその周辺で市が管理する地域において、保全活動等を行う各種団体等と市が協働で青梅の森保全事業を行い、市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等のレクリエーションの場として活用することを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 青梅市役所にて情報共有・意見交換を目的にした会議を令和5年5月、令和6年1月および令和6年3月の計3回開催するとともに、協働により青梅の森内の下草刈り、除伐、間伐、ヨシ抜き、ヨシ刈り作業、野鳥観察、ナラ枯れ対策を実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市民や関係団体等と連携した青梅の森の管理運営により市民が自然とふれあえる場として活用していくため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>企画・運営</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事務局・運営</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

杣保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。
杣保プロジェクト参加団体の活動および協働作業により、青梅の森の保全・整備を推進した。

【青梅市側】

台風等による被害や倒木等の報告や、応急的な対応等を迅速に行ってもらったことで、青梅の森での事故発生等を未然に防ぐことができた。
ボランティア団体によるカシノナガキクイムシ捕獲調査を始めとした、青梅の森の適正な保全・管理に寄与する情報を収集することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

青梅の森内における、ナラ枯れ被害の防除策を検討する必要がある。
風の子太陽の子広場再編工事における、参加団体の意見反映をしていただきたい。

【青梅市側】

青梅の森の保全・整備事業ボランティア団体会員の高齢化が進んでいる。今後は、新規会員の加入のお願いや、若い世代の方が積極的に保全活動ができる環境を整える必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市見守り支援ネットワーク事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 見守り支援ネットワーク事業協定締結事業者 | | |
| 担当課・係 | 高齢者支援課いきいき高齢者係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としている。 |
| (3) 実施内容 | 市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

見守り協定による迅速な連携により地域住民の方（ご親族の方）への安心を得ることができ、事業者にとって適切な判断をすることができた。

【青梅市側】

民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

時間外での連絡先やスムーズな連携。

【青梅市側】

地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 高齢者向けスマートフォン教室・パソコン教室開催事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | パソコンボランティア青梅 | | |
| 担当課・係 | 高齢者支援課いきいき高齢者係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 新規事業（今回の実施が初めての事業） |
| (2) 事業の目的 | 高齢者のデジタルデバインド解消に向けた取り組みの一環として、ICT機器を活用したコミュニケーションや電子サービスの活用を促進することにより、高齢者の市民生活の質を向上させること。 |
| (3) 実施内容 | スマートフォン教室、パソコン教室をそれぞれ5回実施した。延べ参加者数は110人。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 令和5年度市民提案協働事業「高齢者のデジタルデバインド解消」によりボランティア団体と協働で実施することとなった。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>教室の運営、教育機材の貸出し（パソコン教室のみ）、利用するアプリケーションの選定</p> <p>【青梅市側】</p> <p>広報周知、参加申込み受付、会場の確保</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

広報おうめでの参加者募集において、青梅市高齢者支援課の名前がでることで、安心して応募され、毎回、定員以上の申し込みがあります。多くの方に、パソコンとスマホを教えることができました(年間で約110人を教えることができました)。参加者の募集および参加者の人数の確定までを実施いただくことで、講義内容や進め方に専念することができ、質の良い内容を皆様に届けることができております。皆さん満足されてお帰りになって、青梅市との協働事業をやって本当によかったと感じております。

【青梅市側】

スマートフォン教室は54人、パソコン教室は56人の方に受講いただき、デジタルデバイス解消に向け効果があった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

パソコンボランティア青梅の会員が、サポーターをしている。このためサポーターの人数が不足しているため、どうしても定員(12名)が限界となっています。定員数を増やすことができるように、サポーターを増やすように取り組めます。現在、知っている団体からの協力を得て、サポーターの能力不足のところをカバーしている対応をとっている。今後、会員のサポーターが増えない場合、他の団体や企業からのサポーターの協力を得て対応してゆきます。

【青梅市側】

申込者数が定員を超えることが多く、ボランティア団体の協力の範囲をこえてしまうため、抽選になっている。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------|------|-------|
| 事業名称 | 認知症サポーター養成研修事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 認知症キャラバンメイト | | |
| 担当課・係 | 高齢者支援課包括支援係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目的としている。 |
| (3) 実施内容 | 令和5年度末までのサポーター数 7,020人 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 都が企画立案および講師役（キャラバンメイト）を養成し、事業に賛同しサポーターを養成している。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族の方を温かく見守り支援する応援者となる。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>サポーター養成講座を養成するための講師（キャラバンメイト）を派遣する。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

協働の事業という感覚がなく、実施していた事柄ではあるものの、課題などの情報共有はしてきました。また、市民の方に認知症サポーターを増やすためにどうした方がいいか？ということに関してもお話をいただいています。認知症基本法もできたためにこれからも協働としての動きが必要になってくると思います。

【青梅市側】

認知症の人も地域で安心して暮らせる充実したまちづくりが形成される。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

協働というところの課題とは別の視点かもしれませんが、認知症サポーターとしての活動をしていくことや、より深める勉強会などの必要性を感じています。一度勉強したことを実践していくことで学び、意識するというところにも繋がっていくのではないかと思いますので、そのような場の提供は必要になってくると思いました。

【青梅市側】

学校、企業、自治会等にて講座を行い、さらなる受講者を開拓したい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 人権擁護委員の代表 | | |
| 担当課・係 | 高齢者支援課包括支援係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、青梅市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備すること。 |
| (3) 実施内容 | 青梅市役所にて連絡会を年二回開催し、ネットワーク連携体制の強化を図った。（令和5年8月8日、令和6年2月2日） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会設置要綱をもとづき委員会を設置し、委員との意見交換、協議を行っている。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>委員の所属している立場から、連携強化のための意見・協議。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>委員会の事務局、取り組み状況の報告、連携強化に向けた協議の場づくり。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

高齢者虐待に係わる関係団体の職員等により、実施状況や事例について意見交換、協議を行っている。このことにより、共通認識が図られ有意義に開催されている。

【青梅市側】

高齢者虐待の防止や早期発見、虐待を受けた高齢者や養護者に対する適切な支援を行うために、関係機関や民間団体との連携協力体制構築を目指す中、地域における高齢者虐待対応に理解・協力をいただきたいへん有意義である。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

(記載なし)

【青梅市側】

より有意義な連絡会を目指し、協議テーマ選定、会議の運営、実践に取り組んでいく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市中級手話講習会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市聴覚障害者協会 | | |
| 担当課・係 | 障がい者福祉課サービス給付係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | <p>(1) 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること。</p> <p>(2) 日常会話の技術を習得し、ろうあ運動の歴史および聴覚障害者の活動について学ぶこと。</p> <p>(3) 手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進すること。</p> |
| (3) 実施内容 | 福祉センター集会室にて講習会を令和5年5月から令和6年1月まで年25回開催 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市聴覚障害者協会の事業として従前より実施されていたが、同団体より協力依頼があったため |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実施計画の作成および主催</p> <p>【青梅市側】</p> <p>会場確保、広報、参加者の募集・受付、運営費の助成</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|--|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>障害者差別解消法の施行に伴い、より多くの市民に手話を学んで貰い、聴覚障害者への理解を広めるために「手話は言語」であることを理解していただき嬉しく思います。事業のお陰で手話講習会会場の予約手続き等を行っていただきスムーズに行うことが出来たことを感謝しております。2025年11月デフリンピック東京大会に向けて、更に今後も聴覚障害者の社会参加促進のために手話講習会を継続していきたいです。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>聴覚障害者団体が主催することで、手話を学びたい一般市民と手話を必要とする聴覚障害当事者が直接交流することができ、事業目的を達成する上で大変効果的である。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>令和5年度中級講習会を実施出来たことに感謝申し上げます。更に聴覚障害者とのコミュニケーションを深めること目的として行っていきます。また、手話通訳者も育てていく必要がありますので、事業のご協力・ご対応をよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>手話通訳者の人材が不足していることから、当事業を通して一般市民の手話技術向上の機会を広げ、手話通訳者の養成につなげることが課題である。初級、中級、上級とステップアップした講習会を開催することで、継続的な地域福祉の増進を図りたい。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos and descriptions |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--------------------------|------|-------|
| 事業名称 | おうめ健康まつり（市民対象の健康管理と啓発活動） | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市三師会 | | |
| 担当課・係 | 健康課健康推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民の疾病予防、公衆衛生に関する啓もう宣伝、保健衛生知識の普及向上等を図ることを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 6月4日、青梅市役所において、医師、歯科医師、薬剤師による健康相談、歯科相談、薬の相談のほか、転倒予防教室、ペット相談、献血、薬物乱用防止等の諸キャンペーン、梅っこ体操講習会等を実施した。また、市立青梅総合医療センター院長大友建一郎による特別講演会を実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市と三師会理事会との協議による。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>イベントブースにおける事業実施および会計。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>イベント全体の運営、準備。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 3 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

職域の異なる3団体間の相互協力により、毎年6月の開催を目途として活動している。

【青梅市側】

市だけでは為し得ない高度な保健衛生分野の啓発が可能となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

少子高齢化を踏まえ、単なる祭でなく、きめ細かい健康に対する諸問題への啓発活動に力を入れていきたい。

【青梅市側】

一部事業の形骸化が見られ、繰越金がやや多く発生している。組織改正による人員不足があり、今後の継続性に疑義が出つつある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市ファミリー・サポート・センター事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NP0法人青梅ファミリーサポートはあと | | |
| 担当課・係 | 子育て応援課子育て推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。 |
| (3) 実施内容 | 子育て支援を求める者（利用会員）と子育てを支援する（提供会員）による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。（会員数 775人 利用件数 1,142件） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 行政側から提案 子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため委託している。 なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員（協働）事業である。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】 （会員）相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施（NPO法人）事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。</p> <p>【青梅市側】 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域の子育て支援実施実績のあるNPO法人の経験を活かし、様々な子育て家庭の実情に配慮した提供会員・利用会員間でのコーディネートができた。会員募集や交流会等において広報媒体の提供をはじめ行政からのバックアップによって円滑な運営を行うことができた。

【青梅市側】

継続した事業の実施により、子育て家庭への支援の充実は図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。提供・利用会員に丁寧な対応をしてもらい事業が遂行された。周知活動も、協働団体が得意とする子どものための楽しいイベントを行うことで、多数の子育て世代を集客することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

事業の周知においてはまだ十分ではないため、会員の増員目的を明確にし理解しあえるよう話し合いが必要である。

【青梅市側】

情報セキュリティ事故があったことは遺憾であったが、それにより、これまで気付いていなかった業務手順等の見直しや対策を行うことができた。今後も様々な業務に関係するスキルの向上を促す必要がある。また、今後も会員の拡大や、制度利用者増加に向けた周知方法について検討し、より効果的な方策を行っていきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------------|------|-------|
| 事業名称 | あつまれ！0.1.2.3 ちびっこ☆ランド | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NP0法人青梅こども未来 | | |
| 担当課・係 | 子育て応援課子育て推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | <p>①子育て支援に関するイベントを通して、子どもの成長とともに喜び、子育てのヒントを同じ場で共に学ぶことで、保護者同士の交流と情報共有・親育ちの場とする。</p> <p>②講師から、子どもの知性や感性を育む関わり方を体験的に学ぶ。</p> <p>③同じプログラムに参加している自分たち以外の親子の様子を見たり、声を聞いたりする中で、自分たちの子育てについて考える。</p> |
| (3) 実施内容 | <p>青梅市在住であり、国内でも広く活躍中の道化師・クラウン香山ひまわり氏を招いて子どもも大人も共に楽しめるプログラムを実施する。</p> |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | <p>団体側からの声かけにより開始</p> |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>企画、講師選定、当日運営等</p> <p>【青梅市側】</p> <p>会場予約、開催の周知、申込者受付等</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 5 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

講師選定や当日運営をNP0法人が担い、開催周知や受付対応を行政が担当することで効果的に進めることが出来た。子育て関連の情報が豊富なNP0法人により、事業に最適な講師に早い段階で依頼でき、事前準備が入念にできた。また、市内に幅広く配布される広報「おうめ」によって開催を知らせることができた。会場についても行政側の対応が早く、当日のみならず、前日から使用することができ、余裕をもって開催できたことも、協働による効果と考えられる。

【青梅市側】

開催周知や参加受付対応を行政が担い、講師選定や当日運営をNP0法人が担当することで効果的に進めることができた。子育て関連の情報が豊富なNP0法人により、事業の企画等がスムーズにでき、事前準備が入念にできた。開催周知や会場手配については行政側の利便性を活かして対応し、当初予定になかった前日準備を取り入れ、余裕をもって開催できた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

今回は「鑑賞型」の内容で実施し、親子ともにゆったりとした交流の時間を過ごすという目的は達成された。実施後のアンケートには「参加型」へも希望の声があったため、今後の課題としたい。ただし、0歳児と3歳児では成長に差がありすぎて、活動の内容及び大きさが異なるので、どのような内容で実施したらいいのかを、事前にしっかりと相談することが必要と思われる。

【青梅市側】

参加申込方法を電子的に行うことが多くなり、参加者とメールでの情報交換を行えるように当初から備えておくことが必要であった。
0～3歳の募集であったが、就学前の兄弟の参加も例外的に認めた結果、少し大きなこどもが小さなこどもを気遣う場面があり、他世代での交流や新たな一面が見れた。講演内容にもよるが年齢の検討も必要と考える。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | あそぼうよ！青梅 市民協働事業 外遊び型子育てひろば はらっぱ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会 | | |
| 担当課・係 | 子育て応援課子育て推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 本事業は、乳幼児期までの子どもと保護者、妊婦とその家族を対象に、青梅市ならではの自然を生かした、子育て家庭と地域とのつながりの場を作り、子育て世代を支援することを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 市内公園の広場や旧吉野家住宅等を活用し、乳幼児の親子が参加・交流できる事業を令和5年7月から令和6年3月までの間に、24回実施した。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 令和5年2月に青梅信用金庫から「あおしん“TASUKI”寄附金」の申し出があり、この寄附金を活用した事業を検討するにあたり、令和5年3月に「青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会（以下「子梅連」と言う。）」から『「外遊び型子育てひろば はらっぱ」令和5年度実施にむけての提案書』が提出され、本提案内容が、「あおしん“TASUKI”寄附金」の趣旨に合致するものと考えられたことから、業務委託による市と「子梅連」との協働事業として実施することを計画し、令和5年度第3号補正予算の新規事業として、令和5年6月議会で承認された。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ア 事業の企画・運営・実施</p> <p>イ アンケートの実施および集計</p> <p>【青梅市側】</p> <p>ア 市内の子育て支援事業の実情を踏まえた事業企画のサポート</p> <p>イ 広報おうめおよびホームページ、子育てアプリ等への掲載</p> <p>ウ 市内各所での広報活動の支援</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|---|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>①協働により、市民に広く告知ができた。②公園を活動場所とすることで、来訪者への子育て支援観点でのアウトリーチ活動ができた。③助産師、臨床心理士など専門家と繋がる機会を持つことで、年齢層や悩みに合わせた相談支援ができた。④市内の旧吉野邸や親水施設など、活動場所とすることで初めて利用する市民の方がほとんどであり、青梅らしい地域資源・自然環境の周知に繋がった。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>子育て中の親たちの気持ちがわかるスタッフが企画・運営しており、多くの子育て中の親子が、この参加申し込み不要の事業を通じて偶然交流することにより、地域における知り合い・仲間づくりにつながり地域の活性化が図られるとともに、いわゆる「孤育て」の予防にも効果があるものと期待している。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>①市民への周知活動 母子手帳交付時や、乳児健診等でのチラシ配布が不可とのことであったが、対象が重なるため、ぜひ今後も改善検討をお願いしたい。②活動場所 市内の西部での活動をする適切な場所の検討を協議して進めていきたい。③開催回数増の検討 ひろばとして現在月2回程度だが、毎週1回など開催回数増を行い、活動場所も拡大し、交通手段に関わらず参加しやすい環境作りを協議したい。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>事業周知は、子育てアプリや市LINEを活用して実施したが、より効果的なタイミングでの発信を行うことにより、参加者のさらなる増加を図りたい。実施場所については、市施設や自然の魅力を市民にもっと理解していただく機会として、引き続き市内公園や旧吉野家住宅の活用を図っていく。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|--|
| |
|--|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------------|------|-------|
| 事業名称 | 子どもふれあいフェスタ2023 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 子どもふれあいフェスタ2023実行委員会 | | |
| 担当課・係 | 子育て応援課子育て推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 児童の健全育成、子育て支援、多世代交流の場を、子どもが主役となりみんなで作り上げる。市内の子ども関連NPO等団体のネットワークをより豊かにするとともに、青梅市との協働を進めていく。 |
| (3) 実施内容 | S&Dたまぐーセンターにおいて、令和6年2月11日（日）に開催。あそびコーナー、模擬店コーナー、親子交流コーナー、異世代交流コーナーを設け、イベントや遊びを通じて参加者1,075人の交流が図られた。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実行委員会を設立し、企画検討を行うとともに、イベント当日の運営を行った。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>実行委員会会議に参加するとともに、会場確保の協力や事業周知の広報等を行った。</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・複数団体との協働としては、それぞれの団体の得意な分野を活かしながら、協力し合って事業をつくっていくことが出来ています。
- ・行政との協働においては、専門的な業務を担ってくださり、的確な助言を頂くこともでき、より円滑な事業運営が出来ました。

【青梅市側】

市施設を活用して、子どもたちを中心とした多くの参加者が交流を行うイベントとしては、市内最大級であり、NPO団体により企画運営されていることは、非常に理想的な形であると考えている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・たまぐーセンターを会場に2年間行ってきましたが、次回は、たまぐーセンターが予約できないほどの状況のため、福祉センターでの実施となりました。どれくらい前に日程が決まっていれば事前予約ができるのか？など綿密な打ち合わせができる関係をつくっていけたら、と思います。

【青梅市側】

市が事業費の一部を補助し、NPO団体が中心となって、企画運営を行っていく形態は、市内子育て団体同士のネットワークづくりにも大きく効果があるものと考えているので、市としても引き続き支援していきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市親子ふれあい事業ボッチャ大会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会（11地区） | | |
| 担当課・係 | 子育て応援課児童・青少年係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 「親子ふれあい事業ボッチャ大会」は、青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。 |
| (3) 実施内容 | 令和6年2月4日（日）に開催 市内在住の小学生・中学生・保護者、市内在住・在勤・在学の一般市民および大会役員等 68チームが参加 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回大会」が開催された。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。大会前日の準備や当日の運営をすること。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。</p> |

3 P D C A サイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会等の開催事務が円滑に行われている。

【青梅市側】

大会前日の会場設営や当日の出場選手・応援者等大会参加者の整理、誘導について役員や実行委員と協力し円滑に行うことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

細かい修正点はあるが、大きな改善事項は特になし

【青梅市側】

次年度に向けた大きな課題は特にないが、細かい修正点は意見で出てきたので、次年度に生かしたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------|------|-------|
| 事業名称 | 吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 吹上しょうぶ公園ガイドボランティア | | |
| 担当課・係 | シティプロモーション課観光係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--------------------|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 来園者へのサービス向上を図る |
| (3) 実施内容 | 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 来園者へのサービス向上を図る |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ガイドの実施</p> <p>【青梅市側】</p> <p>講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 3 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 3 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 2 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 3 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

花しょうぶ生サンプル展示ありがとうございます。
本日、5月15日（土）小生ガイド担当日には残念ながら花は終わってしまい、来園者への説明が出来ず、誠に残念です。しょうぶ祭り開催中は新鮮なお花で説明出来ればうれしいです。

【青梅市側】

ガイドさんがお祭り期間中にいることで、園内の花しょうぶを満遍なくお客様にお伝えすることができ、何か花しょうぶのご質問があった際も、円滑にお答えが可能となり、より花しょうぶを、ついでには吹上しょうぶ公園を知ってもらえた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

花しょうぶ品種名札は見やすく。汚損したものあり。

【青梅市側】

ガイドさんもお祭りの開催状況を把握しつつ、花の紹介をお客様に紹介することができたと感じる。コロナのような異例の際に、しっかりとしたマニュアルを行政側から、迅速に今後も提示できるよう心掛ける必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 梅の公園ガイドボランティア事業 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 梅の公園ガイドボランティア | | |
| 担当課・係 | シティプロモーション課観光係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|-------------------------|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 来園者へのサービス向上 |
| (3) 実施内容 | 公園内の梅その他の植物、施設等の案内および説明 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 梅の公園来場者へのサービス向上 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ガイドの実施</p> <p>【青梅市側】</p> <p>講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 2 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

シティープロモーション課にガイドボランティア（以下ガイド）用のテントの設置・おやつ・飲み物・マスク・緊急時の対応マニュアル・ゴミ袋・ウェア・腕章・名札等を準備して貰え、ガイドは来園者に喜んで貰えるように梅の説明等の案内が出来た。土日には市の職員を配備して貰え安心して案内が出来て良かった。

【青梅市側】

市民の方がボランティアでガイドを行い、青梅市の梅郷地域や梅の公園等について来場者に興味を持ってもらうことができた。当該活動により再来園への動機を促せるよう効果的なアピールの一つとなることを期待したい。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

入園者がマダマダ少ないのでガイドの人数を増やし、喜ばれる案内が出来るようにしたい。来園者やガイドからの要望は中間地点にトイレが欲しい。令和の梅への案内板が欲しい。駐車場がもっとあればよい。梅の公園MAPには車いす園路がかかっているが実際には坂がきつくて行けない。ガイドのウェアはもっと目立つ方が良かった。ガイドの講師の大坪先生に指摘して貰った改善点を少しずつでも実施して梅の公園のより良い整備を実施してもらえるとリピータが増えると思う。

【青梅市側】

講師の選定や講習開催の方法、講習のあり方についての課題はあるかもしれないが、慎重に検討をしていく必要がある。
また、ガイド自体のニーズや在り方、存在意義についても検討する余地はある。（音声ガイドやQRコードによるガイド等々にする）

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-----------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市森林ボランティア育成講座 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NP0法人青梅林業研究グループ | | |
| 担当課・係 | 農林水産課林務水産係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 将来青梅市内森林の整備に対するボランティア活動に必要な森林施業の知識と技術を参加者に習得してもらうこと |
| (3) 実施内容 | 年10回講座を開催。青梅市内の森林（主な作業場所は青梅の森）で下草刈り、枝打ち、除伐、間伐、植林等の作業を実施。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 「青梅市における市民活動団体等との協働事業に関する指針」にもとづき、協働開催している。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>開催場所の選定、講座内容の計画、技術的指導</p> <p>【青梅市側】</p> <p>講座開催の事務局、参加者の意見集約、今後の取り組みの検討</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・受講生の募集段階において行政が保有する広報手段が効果的に活用されたことにより、森林保全活動に対する高い意識を有する市民を当講座に誘導できたと思う。
- ・行政側の受講生に対する適切なフォローの存在により、りんけんスタッフは、安心して技術指導に役割が発揮できたと思う。
- ・林業従事者の目線だけでは気づくことが難しかった課題や改善点について、新たな気づきが得られるようになった。

【青梅市側】

事業実施のため協働団体に所属する林業従事者との意見交換を行いながら事業を実施した。森林や木材についての専門的な意見を得られ、大変有意義であるとともに、今後の講座内容の検討に大いに役立つ。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・双方の果たすべき役割について、双方の視点から協議を継続し、よりよい役割分担の在り方について絶えず見直していくようにしたい。
- ・当講座の開催目的に合致した成果が得られているか、受講生に対するアンケート等も含め、どのように評価していくことが、より将来の改善に結びつくか、双方による討議の場を設けても良いと思う。

【青梅市側】

講座を修了した参加者が、森林ボランティアとして活躍するための支援策が課題である。事務局としてボランティア団体の案内等の斡旋活動を実施していきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市住宅なんでも相談会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会（※民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体） | | |
| 担当課・係 | 住宅課住宅政策係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、空家の相談、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 相談件数 22件 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>相談会当日の相談員</p> <p>【青梅市側】</p> <p>市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。

【青梅市側】

住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空き家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んでいただけたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。

【青梅市側】

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法を検討する。
特に継続空家の所有者など相談会に参加して欲しいターゲットに対し、相談会を利用していただく効果的なPR方法を検討し、実行に移す必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市定例住宅相談会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会（※民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体） | | |
| 担当課・係 | 住宅課住宅政策係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、空家の相談、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 相談回数 11回 相談件数 23件 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>相談会当日の相談員</p> <p>【青梅市側】</p> <p>市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。

【青梅市側】

住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解決することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空き家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んでいただけたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。

【青梅市側】

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法を検討する。
特に継続空家の所有者など相談会に参加して欲しいターゲットに対し、相談会を利用していただく効果的なPR方法を検討し、実行に移す必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|------------|------|-------|
| 事業名称 | 学校教育ボランティア | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 学校教育ボランティア | | |
| 担当課・係 | 指導室指導係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>学校の依頼にもとづく支援</p> <p>【青梅市側】</p> <p>学校への活用奨励</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

図書室の本の整備活動を通して、子供たちが多くの本に興味を持ち、手に取ってもらうことができた。
また、学校司書さん、先生方のご協力のもと、読み聞かせ活動を推進することができた。

【青梅市側】

地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。
図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。（登録 3
1 2 人）
地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。
教員だけでは補うことができない点に支援を受けることで、教員の負担軽減に繋がっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

学校の規模、児童数に対して、ボランティア人数が少なめなので、増員を目指したい。

【青梅市側】

人材の十分な確保、広報活動。
ボランティア人材の発掘。
学校によって活用実績・活用人数に差がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2023～ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア | | |
| 担当課・係 | 社会教育課生涯学習推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知 |
| (3) 実施内容 | 出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、お話会、体験イベント、市内の団体・企業による飲食物販売。 来場者・参加者 2,003人 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>企画運営</p> <p>【青梅市側】</p> <p>事務局</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 3 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 3 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

釜の淵公園とS & Dたまぐーセンターの2会場を使用して開催することができた。
出演者が皆楽しそうに参加していたのが印象的であった。

【青梅市側】

新緑祭全体の準備や片付けにも各団体の実行委員に協力してもらい、協働を推進することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

2日目は雨天のため、会場が釜の淵公園からS & Dたまぐーセンターに変更となり、学生ボランティアも1か所に集中してしまい混乱が生じた。

【青梅市側】

来年度も実行委員会の運営がさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていきたい。
市民と協力し合いながら釜の淵公園、文化交流センターの2会場を使っての新緑祭を創り上げていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--------------|------|-------|
| 事業名称 | 家庭教育講演会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NP0法人青梅こども未来 | | |
| 担当課・係 | 社会教育課生涯学習推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 家庭教育の充実を図る。 |
| (3) 実施内容 | 以下の3回の講演会を行った。 ①悩んでいませんか？学校でのお困りごと～子どもや先生との上手な関わり方～（市役所会議室・オンライン生配信） ②思春期って、どんな時期？～子どもの心に寄り添うポイント～（オンライン） ③がまんする力はどのように育つか（市役所会議室・オンライン生配信・託児有） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 子育て現場の声を反映した講演会とするため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>保護者への周知、講師等の情報提供、子どもの保育、当日受付・手伝い。</p> <p>【青梅市側】</p> <p>周知・講師交渉、申請受付、当日運営。</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 5 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 協働ということでお互いの役割分担が出来、年3回の開催が可能になった。
- ・ 青梅こども未来の各種事業の利用者・参加者にチラシを配布したり直接お知らせしたりすることができた。
- ・ 子育て中の保護者の要望(青梅こども未来の子育て中のスタッフの意見を取り入れるなど)に応えるテーマを取り上げることが出来た。

【青梅市側】

- ・ 青梅子ども未来のスタッフや利用者を通じて子育ての意見を取り入れるなど、子育て中の保護者の要望に応える内容で開催できた。
- ・ 3回のうち1回は託児を委託することで参加者の多様なニーズに答えられた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 青梅市の講師料の設定に関しては、今後も市場価格を鑑みた設定や予算の計上をお願いしたい。
- ・ 今後も現役子育て世代が「聞きたい・参加したい」と思えるテーマのリサーチを双方で行い、それに基づいた企画をしてなるべく多くの子育て中の保護者が参加しやすい講演会を目指したい。

【青梅市側】

- ・ 対面・オンラインの良さを取り入れたり、託児を青梅こども未来に委託する等、参加方法を自由に選択できるような開催方法を考えていきたい。また可能であればアーカイブ配信も行い多くの子育て中の保護者に届けられるようにしたい。
- ・ 参加者増加のための周知方法を検討したり、講師選定をしていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------|------|-------|
| 事業名称 | この指とまれ！朗読会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 「リーダーズあおうめ」 | | |
| 担当課・係 | 社会教育課図書館管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営</p> <p>【青梅市側】</p> <p>企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。

【青梅市側】

朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

朗読を発表した参加者や行政と、事業実施後に課題や改善点についてもう少し話し合う機会、反省会を設けたい。

【青梅市側】

この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、市民と行政が連携することによって、より参加者が楽しく参加できるイベントへと発展させていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------|------|-------|
| 事業名称 | 中央図書館整架ボランティア | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 図書館整架ボランティア登録者 | | |
| 担当課・係 | 社会教育課図書館管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | 整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理を行っている。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>図書の整架・清掃</p> <p>【青梅市側】</p> <p>ボランティアに対する社会的活動の場の提供</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 3 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|---|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>5月から制限を解除した活動ができるようになり多くの時間を整架に費やせた。図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。</p> <p>新規のボランティア登録者により、活動人数が増えたことで、より活動の成果があった。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>令和5年度5月より制限を緩和した活動を実施することができ、活動にも活気が戻った。</p> <p>活動を実施したことにより利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、ボランティアの養成講座を行い、4人の方が新規登録をしたことで、業務負担の低減にもつながった。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>図書館側とより活発な意見交換をすることにより、効率的な作業を行えるようにする。</p> <p>分館図書館での活動を再開してほしい。また、ボランティアの新規登録者を引き続き募っていただきたい。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>ボランティア側の疑問点を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。</p> <p>さらに、自立的活動ができるようサポートする。（わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等）</p> <p>分館図書館での活動に関しては、現在、再開に向け調整中となっている。</p> <p>次年度も、新規ボランティアの募集を実施する予定となっている。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos and descriptions |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | おはなしボランティア | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本研究会」 | | |
| 担当課・係 | 社会教育課図書館管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。 |
| (3) 実施内容 | おはなし会12回（中央）、12回（今井）、3回（梅郷）、2回（新町）、12回（青梅）、絵本の森12回、大人向けおはなし会3回、新緑祭1回、出張おはなし会8校61回、絵本のべんきょう会6回、おはなしにちょうピーナッツ12回、初級おはなし学習会7回、計143回 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会への参加、実演</p> <p>【青梅市側】</p> <p>おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会の開催</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 5 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

図書館と協力しておはなし会を実施できた。
学校におけるおはなし会等、おはなしを届ける機会が増えて良かった。

【青梅市側】

プログラム、運営方法を十分に話し合ってから、おはなし会を実施できた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

これからも子どもたちに良い読書体験ができるよう協力したい。

【青梅市側】

ボランティア育成の継続、活動機会の確保に努めたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 中高校生向け読書会 「本好きたちの集い」～教えて！きみの一冊～ | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 「ペンギンの会」 | | |
| 担当課・係 | 社会教育課図書館管理係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 新規事業（今回の実施が初めての事業） |
| (2) 事業の目的 | 中高校生を対象とした読書会を開催することで、読書に対する興味関心を持ってもらい、中高校生の図書館の利用促進を目指す。また、市民団体と協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図る。 |
| (3) 実施内容 | 「ペンギンの会」と中央図書館が共催で読書会を開催。市内中高校生が日頃読んでいる、おすすめ本を紹介し合い、参加者が自由に読書に関する話題を交換できる時間を確保し、意見交換を行った。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 中央図書館におけるティーンズサービスの充実に取り組む中で、図書館ボランティア「ペンギンの会」から中高校生を対象とした朗読会イベントを提案された。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>企画立案、広報、読書会の開催運営への参加、実演</p> <p>【青梅市側】</p> <p>広報、応募者の取りまとめ、会場提供、読書会の開催支援</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 5 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 5 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 5 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 5 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 5 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 5 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 5 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 5 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 5 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

中高校生を対象とした読書会を開催することで、中高校生の読書の傾向を知ることができ、また一般市民に対しても読書に対する興味を引き出すことができた。中央図書館との協働により、見学者の参加を呼びかけてもらい、読書会での質疑応答が活発になされた。

【青梅市側】

中高校生を対象とした読書会を開催することで、読書に対する興味関心を持ってもらい、中高校生の図書館の利用促進を促すことができた。
また、市民団体と協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを推進することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

中高生の積極的な参加が難しかった。理由としては部活、模擬試験、読書不足によるところが大きいと感じた。よって、次回は夏休みの午後の時間帯に企画し、課題本などを提供しながら実施したいと考えている。

【青梅市側】

中高生の積極的な参加が難しかった。理由としては部活、模擬試験、読書不足によるところが大きいと感じた。よって、次回は夏休みの午後の時間帯に企画し、課題本などを提供しながら実施したいと考えている。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|--------------------------|------|-------|
| 事業名称 | 青梅市吉川英治記念館 秋のライトアップと夜間開館 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | NP0法人青梅吉野梅郷梅の里未来プロジェクト | | |
| 担当課・係 | 文化課吉川英治記念館担当 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。 |
| (3) 実施内容 | 吉川英治記念館の開館時間は、午前10時から午後5時までのところ、主屋と庭園をライトアップし午後8時まで夜間開館を実施した。【期間中来館者】 400名（うち夜間開館来館者125名） |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市からの提案、NP0法人青梅吉野梅郷梅の里未来プロジェクトにライトアップのノウハウがあるため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ライトアップ会場設営などのコーディネート</p> <p>【青梅市側】</p> <p>ライトアップ会場の提供、周知、運営全般</p> |

3 PDCAサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 5 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 3 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 5 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

| |
|--|
| (1) 協働による効果 |
| <p>【協働団体側】</p> <p>敷地外の照明設備の設置について、地域と円滑に調整することができ、トラブルなく実施することができた。 既存の照明設備を活用するとともに、新たな照明設備を追加することで、メリハリのある演出ができた。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方に訪れてもらうことができた。</p> |
| (2) 今後の課題および改善事項など |
| <p>【協働団体側】</p> <p>照明設備設置の協力会社との連絡・調整がうまくいかず、最終形になるまで何度も手直しを行っている。 協力会社を選定する場合は、金額よりも現場対応力を重視することで、トラブルを回避することができると考える。</p> |
| <p>【青梅市側】</p> <p>他団体が実施している事業と足並みをそろえ開催することができた。多くの方に吉川英治記念館を知ってもらうための取組として今後も継続していきたい。 今回、初めての試みとして、愛宕神社のライトアップも実施したが、設営業者が愛宕神社への連絡ミスがあり、設置作業を予定どおりに実施できず、愛宕神社のライトアップの開始が遅れてしまったことは、次回の課題として共有していく。</p> |

5 事業の様子（写真等）

| |
|---|
| Empty space for photos and descriptions |
|---|

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|-------------------|------|-------|
| 事業名称 | 地域連携展示『五月人形展』 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 市民、武州青梅三田弾正手作り甲冑隊 | | |
| 担当課・係 | 文化課吉川英治記念館担当 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。 |
| (3) 実施内容 | 出品者6組・展示総点数35点（内8点寄贈） ・兜飾、鎧飾、祝太刀、破魔矢飾、甲冑など 【期間中来館者】 473名 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市からの提案、吉川英治記念館を知ってもらう機会を創出するため。 |
| (3) 役割分担 | 【協働団体側】 五月人形等の展示協力 【青梅市側】 五月人形等展示、周知、運営全般 |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 4 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

近隣にお住まいの市民より寄贈・借用した五月人形や、「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」の方々による甲冑を展示するとともに、青梅市内にある文化財住宅での展示と連携したポスターを作成しています。各施設相互の告知により、より多くの市民の方に周知し、各施設へ足を運んでいただくきっかけとしました。

【青梅市側】

吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

事業の特性上、毎年新しく異なるものを飾るものではなく、内容自体に変化をつけることが難しいと感じています。
季節感を感じる行事として、人形等の展示に加え、付加価値のあるイベントなどの試みが課題かと思えます。

【青梅市側】

展示スペースに限りがあるため、多くの方から提供の申し出あったときの対応

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------|------|-------|
| 事業名称 | 地域連携展示『ひな人形展』 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 市民 | | |
| 担当課・係 | 文化課吉川英治記念館担当 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。 |
| (3) 実施内容 | 出品者7組・展示総点数15点（内5点寄贈） ・七段飾り、親王飾りなど 【期間中来館者】 1,298名 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市からの提案、吉川英治記念館を知ってもらう機会を創出するため。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ひな人形等の展示協力</p> <p>【青梅市側】</p> <p>ひな人形等展示、周知、運営全般</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 4 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 5 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

近隣にお住まいの市民より寄贈・借用した雛人形を展示しています。提供者に記念館の招待券をプレゼントすることで来館者の広がりを感じられます。記念館の年中行事として定着し、アンケートでひな人形の飾りつけを綺麗、良かったといったお声を多数いただいております。お客様に日本の伝統を感じていただく行事として意義あるものと思います。また、市内の文化財住宅を周知、周遊できるきっかけとしても協働で広報することは意味があることと思います。

【青梅市側】

吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

好評とのお声をいただいております。文化財住宅と連携して実施している事業なので、ポスターの掲出に加え期間前、期間中の積極的な広報宣伝をこれからも行っていく必要があると考えます。

【青梅市側】

展示スペースに限りがあるため、多くの方から提供の申し出あったときの対応

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|---------------------|------|-------|
| 事業名称 | ガイドボランティア養成講座 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 市民、吉川英治記念館ガイドボランティア | | |
| 担当課・係 | 文化課吉川英治記念館担当 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|--|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | 青梅市吉川英治記念館にて、主に庭園や主屋の案内を行うガイドボランティアを養成し、吉川英治氏を知るきっかけとする。 |
| (3) 実施内容 | 青梅市吉川英治記念館にて、主に庭園や主屋の案内を行うガイドボランティアを養成することにより、学びを活かす場を提供し、ボランティア活動を推進する。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|--|
| (1) 協働の形態 | 事業共催（市と団体等が共同で事業を実施） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 市側からの提案、青梅市吉川英治記念館にて、主に庭園や主屋の案内を行うガイドボランティアを養成し、吉川英治氏を知るきっかけとする。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>ガイドボランティア参加</p> <p>【青梅市側】</p> <p>ガイドボランティア養成講座実施</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 5 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 5 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 5 | 4 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 5 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 5 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 5 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 5 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

事業終了後、講座参加者4名がボランティアとして希望された。

【青梅市側】

吉川英治記念館に興味を持っている方を対象に、ガイドボランティア養成講座を開催し、ガイドボランティアとして学びを活かす場を提供することで、来館者の満足度の向上に効果がある。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

実際にガイドボランティアとして活動している方の体験談等をお伝えするなどし、多くの方に興味を持っていただき、参加してもらえようようにしたい。

【青梅市側】

ガイドボランティアを組織化してもらい、継続的な活動のサポートをする。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

| | | | |
|---------|----------------|------|-------|
| 事業名称 | 第56回青梅マラソン大会 | 実施年度 | 令和5年度 |
| 協働団体の名称 | 青梅市陸上競技協会他 | | |
| 担当課・係 | スポーツ推進課スポーツ推進係 | | |

1 事業内容

| | |
|-------------|---|
| (1) 事業開始の時期 | 既存事業（以前から実施している事業） |
| (2) 事業の目的 | <p>①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供</p> <p>②全国からの参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。</p> |
| (3) 実施内容 | 参加者（定員16,000人）を募集し、安全なマラソン大会を運営する。 |

2 協働の内容

| | |
|----------------|---|
| (1) 協働の形態 | 政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。） |
| (2) 協働の理由・きっかけ | 参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。 |
| (3) 役割分担 | <p>【協働団体側】</p> <p>競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、関係機関との連絡調整、救急救護、通信連絡体制、参加申込み選手の受付等</p> <p>【青梅市側】</p> <p>道路の専用許可手続および官公署との連絡調整、コース、会場設営、施設（更衣所、トイレ等）の整備確保、住民の協力要請と周辺対策等</p> |

3 P D C Aサイクルによる事業評価

| | | 協働団体側 | 青梅市側 |
|--|---|-------|------|
| 計画 段階 (P) | 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた | 3 | 4 |
| | 事業に最もふさわしい協働の形態が選択された | 3 | 4 |
| | 協働の役割分担は適切だった | 4 | 3 |
| 実施 段階 (D) | 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| | 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 4 |
| | 事業実施は円滑になされた | 3 | 4 |
| 事業 終了後 (C・A) | 事業の目的が達成された | 4 | 4 |
| | 事業が形骸化、形式化となっておらず、目標達成のための取り組みが適切に実施された | 3 | 4 |
| | 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| | 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 2 | 4 |
| 【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった | | | |

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

昨年より規模を拡大しての開催であったが、ボランティアとの協働作業により安全・安心な大会となり、参加者からの不満の声は少なかった。また、市民ボランティアによる協働事業参加により青梅マラソン大会への関心や市民意識の高揚につながったと思われる。

【青梅市側】

昨年度（第55回記念大会）より規模を拡大し実施したが、大きなトラブルや不満の声がなかった。また、駅周辺や会場、沿道での混雑も予想されたが、協働によりスムーズな案内ができ、安全な大会を運営することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

医務救護箇所における主催者側とボランティア(医師・看護師等)との連携に不十分さが発生したことから、体制や連携手法等の改善が必要と思われた。

【青梅市側】

- ・参加者の減少
市民マラソンへの参加者が減少傾向にあるため、参加者募集に苦戦している。募集、周知方法の再検討の必要があるため、青梅マラソン大会の魅力を発信していくことや、SNSを活用する等を検討する。
- ・ボランティアの人材確保
市職員だけでなく、地元協力企業のボランティア人数が減少している。また、役割についても見直す必要がある。

5 事業の様子（写真等）



事業報告書

事業名 生ごみ(ぼかし)堆肥をつくってみよう！実験



9 / 1 6 説明会



1 1 / 1 9 ふるさとまつりアピール



畑に埋める



コンポスタへ



土に返ったか？



元肥に 1



元肥に 2

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- 1, 生ごみを土に戻す方法のひとつで、ぼかしや密閉容器などは市販されているが、「初めて知った」「以前に勧められてやってみたが、挫折した」というモニター登録者も、土に返す畑や庭があれば、意外に楽しくできた、継続していきたいという感想が多く聞かれた。
- 2, 説明会のために作成した資料（小冊子）を配布するなどして、ふるさと祭りでアピールさせていただいたが、生ごみ減量に関心をもっている市民は少なくないことを実感できた。
- 3, 個人の庭とは違い、畑地帯や自然豊かな（青梅市の特徴）環境で生ごみを埋めると、野生動物に掘り返される被害もあり、それにはコンポストで土とサンドイッチにしてしばらく寝かせて堆肥化をすすませてから畑に戻すとよいということが分かった。
- 4, 生ごみのぼかしあえを埋める畑や庭がそれほどない方が、継続的に取り組めるようにするためには、密閉容器から回収することができれば、取り組める人は格段に増える可能性あり。（実際に 1 名回収中、）
- 5, 実際にコンポストで生ごみのぼかしあえを受け入れてみて、この方法ならば、庭や畑のある方とご近所さんとの交流で、生ごみを土に返すことができるのではないかと実感できた。（畑の近所の方は畑へ持参継続）

9 目標達成

事業の目標：

- 1, 生ごみ（ぼかし）堆肥づくりに取り組んだ感想や意見、可能な限り温度や重量などを集めて、改善点を導きだしたり、さらなる取り組みへの土台となる報告書を作成する。
- 2, 畑へぼかしあえを持ち込む機会に交流したり、報告会で結果をふまえて、生ごみの減量のためにできることをいっしょに探る機会や、

ごみ減量に関心のある人の輪を醸成する。

目標の達成具合：

- 1, 説明会は、ぼかしの性質や生ごみをどのようにぼかしあえにして土に返すか概ね理解していただけた。また、ふるさとまつりなどの短時間の説明でも冊子を読み返していただいたりして、おおよそ理解いただけた。
- 2, モニター登録者15名（おひとり個人理由で離脱）のうち、11名の方から、3か月間取り組んでいただいたアンケートを回収することができた。また、メッセージや電話のやり取りで、特に取り組み初期は、やってみなければわからない、頭に入らなかった・・・と相談も少なくなった。詳しくは報告書を作成しましたので、ご覧ください。
- 3, ほとんどのモニターさんが、畑や自宅の庭に埋めることができる方で、それでもわざわざ霞川くらしの楽校の畑まで来ていただいた方とは交流できましたが、お忙しい方も多く報告会まではできませんでしたが、返していただいたアンケートに、改善点なども入れて、情報共有できるように報告書を作成してモニターさんに送付できました。
- 4, もやすごみの減量という視点では、3カ月で推計200キロくらいの減量になったのではないかとと思われる。

10 事業の実施内容

- 生ごみのぼかしあえのつくり方、土に返す方法などをまとめた小冊子や記録用紙などを作成
- 大門市民センターでの説明会を設定、広報、資材などの購入準備、説明会、モニター登録の受け付け
- 説明会で足りなかった資料や説明の不十分だった畑の場所の地図に、気軽に相談くださるようお手紙を郵送
- モニター期間中土曜日の午後1時間程度（季節により時間ずらす）畑で、受け入れ、交流、相談、ぼかしの配布。（ショートメールや電話でお知らせ）
- 畑での配布は12月に入って2回大門市民センターで行う。

- アンケートの作成、配布、回収、集計。
- 情報共有のための報告書の作成
- 報告会は実施せず

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

| 調査項目 | 団体 | 担当課 |
|---------------------------------|----|-----|
| (1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| (2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された | 3 | 3 |
| (3) 協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| (4) 協働相手は適切だった | 4 | 4 |
| (5) 対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| (6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| (7) 事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| (8) 設定した目標が達成された | 3 | 3 |
| (9) 協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| (10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・ 団体側

☆ 季節：ほかしの中の菌も生き物であり、生ごみもまさに生もの。今回は、10月～12月という扱いやすい、また畑も比較的空いている時期に実施しましたが、季節が異なれば、やりずらいことや気づきから改善のアイデアが生まれる可能性もあります。

☆ 容器の準備：密閉容器、特に汁を抜く栓のある専用バケツ（1980円）2つは値がはりますが、準備保管しておくことの負担が大きかったです。また、急に1週間にどれだけの容量があれば？とだれもが想像できるわけではない（実際に家に持ち帰ってから交換や、やってみてから小さい方の容器でも大きすぎるからと返却いただいた方あり）ので、ビニール袋でやってみてから容器を選んでもらうか、容器は見本とし

てみるだけで、各自合うものを購入いただいてもよいのではないかと思います。

- ☆ 畑の受け入れ：時間を決めて待っているというより、受け入れが必要であれば、個々に対応するでよかったと反省。
- ☆ 機会があれば、「生ごみを燃やさないで土に返すこんな方法もありますよー」と、店頭やおまつりで場所を設定できれば、アピールにでかけることは、時間があれば可能かもしれません。
- ☆ 一度に多くの方に説明しても、相談など受け入れ対応が厳しくなってしまうという心配はあります。（やってみないと・・・と、初期のフォローや実施していく途中での相談大切）
- ☆ 広～い青梅市で、畑や余裕のある庭をお持ちでない方が、継続的に生ごみのぼかしあえをつくっても土に返したり、できたぼかしあえを回収して土に返す方策が必要。
- ☆ 野生動物の被害は、放置しておいてはよくないと思いますが、その点詳しい方に説明伺いたいです。
- ☆ 今回、報告会や交流などできなかったが、ごみ減量の視点からも、継続こそ大切で、トラブル（私も）事例やヒント、つぶやき、アイディアや、今度ここで説明しますなどのお知らせを書き込めたり、つぶやけたりできるものがあると、紙の報告書は必要なくなると思いますが、団体にはそういうノウハウがありません。

・ 担当課側

今回の市民提案協働事業では、新たな生ごみの減量効果が期待できる方法を知ることができた。ごみの減量を推進していくためには、市民の協力が不可欠であり、今回のように、生ごみ減量に関心の高い市民が参加し、活動体験や交流をすることの必要性も改めて認識できた。今後のごみ減量施策に繋げていきたい。

13 その他

詳細は、報告書をご参照ください。

事業経費については、

少量（現在の家族構成などを考え直し）容器も合わせて準備し、汁抜き栓がない分を鉢底メッシュを裁断して付けることで、経費削減

ほかしについては、量販店の798円でなくても園芸センターで販売されているほかし（210円）で、十分できることを確かめて切り変えたことで大きく経費削減。

などがおもな要因で、予算額よりかなり少なくてすみしました。

交流会のためにという目的で300円/人集めた参加費は、自宅で処理される方、考えたより遠方の方の登録が多く、あまり交流会にはなりませんでしたが、郵送費通信費などに回させていただきました。

この事業ばかりではありませんが、

容器の見本やパネルなどを、市役所1階（可能ならば、や市民センター図書館など）で展示し、市民にアピールするなど目に見える呼びかけが、あるとよいと思います。

市民提案型・行政提案型協働事業について、

団体提案であるということは、予め公募が4月にあるということを知っていて準備できる団体しか応募できない期間設定であることが、とても残念です。民主的な運営がなされている団体ほど、団体の決定には数カ月の時間を要するもの。前もって大まかな提案材料はあったものの、実際には応募に当たって、実際には1晩で作成した提案書で団体討議を経て、数日で予算見積もりまでしました。急ぎ作成した提案や見積もりを見直しながらの実施でした。

市民のつぶやきをどうやったら事業に結びつけられるか、ボランティア団体連絡会などで、共有することは必要か思いますし、広く市民に公開すべきと思います。

事業報告書

事業名 アートスタート事業



1 実施団体 特定非営利活動法人子どもと文化の NPO 子ども劇場西多摩

2 担当課 子育て応援課

3 実施時期 2023 年 11 月 18 日（土）25 日（土）

4 参加者 11 月 18 日 34 名
25 日 13 名

5 実施場所 11 月 18 日 S&D たまぐーセンター 会議室 AB
25 日 新町市民センター 和室

6 事業の目的

- ・乳児からの豊かな体験をつうじて、子どもの成長・また保護者も含めた豊かな子育てに貢献する。
- ・孤立しがちな乳児期の親子が、アートを介して人とつながることを目指す

7 役割分担

- ・団体の役割 企画・運営・広報
- ・担当課の役割 広報・申込受付・事業当日の受付と参加

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

アンケートでは

「やさしい音をたくさん聴けて母もリラックスできました。いつもテレビなど、刺激の強い動画ばかり見ているのでとても良い時間でした。」

「音楽が好きなのでいろいろな音を聴けて嬉しそうでした。音や仕草等、子どもの五感を刺激できて貴重な時間でした。」

「とても楽しい時間でした。本人ものめりこんでいて、来れてよかったです。楽しいだけでなく、日々の子どもの時間も楽しめるヒントもたくさんあって、明日からも楽しい時間が増えそうです。」

「遊びながら絵本を読むことが大人でも楽しかったです。絵本世界と現実の世界がつながると面白いです。そして子供がそういったことに気づく（出会う）瞬間に立ち会えると幸せだなと感じました。えほんて割と自由に読んでいいんだなという発見もありました。」などの声がありました。

今回の事業の効果

- ・乳幼児の親子に、はじめての音やパフォーマンスとの出会いを届けることができた
- ・乳幼児時期に必要な親子の関わりのヒントになる、絵本をつうじたあそびや、布やおりがみ・風船など身近なものでコミュニケーションをとりながらあそぶことの大切さを自然と伝えることができた
- ・乳幼児がスマートフォンで YouTube をみるなど、子どもの生活に急速に進むデジタル化の中で、音や声に耳をすませ、保護者の温もりを感じながら一緒にみるというアナログの体験ができた
- ・子どもの個性がそのまま認められる講師の関わりの中で、保護者が安心して過ごすことができた
- ・25日は終了後に交流会を設けたことで、事業の感想をはじめ、子育ての中でいかしていきたいことの声もきくことができた。
- ・また交流会をすることで、乳幼児の親子が自然と人と一緒に楽しむ場に参加し交流する入口としての機能を果たすことができた

9 目標達成

事業の目標：参加者数として

11月18日 親子30組 11月25日 親子15組

目標の達成具合：11月18日 34名 親子16組（申込時18組）
25日 13名 親子6組（申込時7組）

10 事業の実施内容

アートスタート事業として、2つの事業を行いました。

11/18「ぽかぽかぷくぷくマインマイン」香味野菜

役者の中市真帆さんと、音楽を担当する櫻田素子さんのお二人で演じる人生のはじまりに出会う小さな舞台の実施。45分間の公演はゆったりとした生演奏の音楽の中で、布や風船をつかった乳児の感性に働きかけるパフォーマンスを、また最後にはぬいぐるみを用いたおはなしを。あそびと音とお話を楽しみました。

11/25「とびだせ絵本」

役者の中市真帆さんが20冊以上の絵本をならべた中から、参加者の月齢や様子をみながら選び、コミュニケーションリーディングを進めます。目と目を合わせて…内容にあわせ歌をもちいて…いろんな声で…。後半は折り紙をつかったあそびの時間。まるめた折り紙をボールにして、透明の筒に通すあそび、広げた円形の布をみんなでもってころがすあそび。家でもできること、ここにいるみんなとだからできること、様々なあそびのアプローチで、子どもが楽しむことはもちろん、保護者が普段子どもとあそぶ際のヒントがたくさんつまっていました。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

| 調査項目 | 団体 | 担当課 |
|---------------------------------|----|-----|
| (1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた | 4 | 4 |
| (2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された | 4 | 4 |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| (3)協働の役割分担は適切だった | 4 | 4 |
| (4)協働相手は適切だった | 4 | 4 |
| (5)対等な立場での協力関係を築けた | 4 | 4 |
| (6)協働相手の自主性・自立性は尊重された | 4 | 4 |
| (7)事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| (8)設定した目標が達成された | 3 | 3 |
| (9)協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 |
| (10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 4 | 4 |

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

団体側）乳幼児の時代にこのアートスタート事業のような舞台芸術体験に出会う大きな意義は、「人との出会い」です。

5歳までの間に育つといわれている自己肯定感や感性を育てるためには、日常的に関わる保護者の存在が大きくなりますが、保護者がなかなか人とつながることが難しく、家族だけで背負う責任の重さや、親自身も体験が少なくなっている中で、せまい視野で子どもに接してしまうことは多々あります。様々な人や文化に出会うことで、風通しがよくなり、親子共に安心して過ごすことができますが、そのような環境は今多くありません。

親子の日常に少しでも子どもとの生活が豊かになるヒントを届け、市民同士のつながりを伝える場は大切になっています。乳幼児の親子が自然と人と一緒に楽しむ場に参加する入口として、子どもの豊かな感性を育む一つのきっかけとしてのこの事業を是非継続していけたらと考えています。

今回、チラシを全保育園へ届けること、子育て広場での配布、2回ほどの市の乳児健診での配布、青梅市 SNS での発信をしましたが、参加者は目標に届くことはできませんでした。しかしこの結果をニーズがないと捉えるのではなく、今後どのような場で実施し、どのような広報をすることで、必要な体験が届くのかを検討していきたいと思います。

行政側）まだ3歳以下の小さな子ども達が、普段味わうことがない音や動きに、目を丸くして反応している姿が印象的でした。大人が感じたことと

は違った感受性を持って、劇や絵本に相対していることが素晴らしく、この事業に参加したこどもがどのように育つのか、今後が大いに楽しみになってきました。

このような体験を多くの子供達に経験してほしい一方、参加者が目標に達しなかったことは、周知方法等の検討が必要と考えます。

また、今後の事業を継続については、子育てひろばや子育て支援センター事業のような年間の委託事業の1コマとして組み込むか、今回のように単独事業として開催するか、予算面からみても検討が必要です。

13 その他

事業名

おそきの空き家に住みたい♪かなえたい♪プロジェクト



「人口減少時代の実家家屋はどうすべき？ ～空家にしないために～」講演会

1 実施団体

おそきの学校と地域を考える会

2 担当課

住宅課、シティプロモーション課

3 実施時期

令和5年8月～令和6年3月

（市民提案協働事業としての実施期間はこの期間だが、協働事業として令和6年度も事業を継続する）

4 参加者

協力：自治会連合会第6支会

参加者：小曾木地区での事業だが、講演会は青梅市全域に展開実施

5 実施場所

小曾木地区。講演会は青梅市全域に展開実施

6 事業の目的

小曾木地区への移住者増加と空き家減少のために

1)小曾木地区で地域に密着した存在である提案団体が、空き家の全数把握を実施の上、空き家提供に関するプリントやアンケートを青梅市と連携して作成する

2)青梅市側が空き家所有者へ上記プリント等を送付し状況を把握する

3) 空き家所有者に団体と青梅市とで面会し、困りごと等をヒアリングの上、こちらの思いもお伝えする

4) 青梅市の補助事業も呼び水に空き家バンク登録を促進する

事業終了後に良かった点や改善点を検証し、市内全域へ展開していくことにより、青梅市全体の移住者増加と空き家の減少につなげる

7 役割分担

・団体の役割

1) 第6支会と協力して各地域の空き家と思われるお宅の確認

2) 空き家を賃貸・活用・空き家バンク登録などへつなげて欲しい趣旨のプリントやアンケートの作成

3) 所有者が青梅市住民だった場合、市職員同席含めて検討し最善な方法での面会

4) 移住希望者がいた時の情報提供・情報共有・地域紹介おもてなしの協働実施

・担当課の役割

1) 青梅市の空き家対策事業についての個人情報でない一般的な情報提供

2) 空き家の持ち主への考える会の気持ちを込めた文書の発送

3) 持ち主との面会を行う場面での最善と思われる場合の同席と空き家事業の紹介

4) 空き家提供につながったときの移住希望者への情報提供・情報共有・地域紹介おもてなしの協働実施

5) 当協働事業終了後に、その効果や結果について他の青梅市支会への説明の場の設定（支会長会議の場をイメージ）

6) その後の各支会での同様な動きの積極的なサポート

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

現在、事業が終了した状況にはないが、自治会第6支会の協力で地域の空家の状況がかなり把握できたとともに、自治会長などの地域の方々の意識が住民減少状況がこのままではいけないとの危機感高揚につながって防災や学校支援など他の活動への波及効果も感じる。令和6年度に通常の協働事業として空家減少と移住希望者への情報展開などを進めたい。

9 目標達成

事業の目標：

- 1) 小曾木地区の空き家の全数状況把握
令和3年3月青梅市調査で小曾木地区の住宅に63棟の空き家あり
- 2) 持ち主の方に考える会が作成したアンケートを青梅市が送付し、
こちらの思いを伝えるとともに持ち主の方の困りごとなどに対応
して空き家を貸借・活用へとつなげる

目標の達成具合：

- 1) 小曾木地区の空き家の全数状況把握について
自治会連合会第6支会の協力を得て59件の空家情報を取得。
ただし、マンションの空室3は空家カウントには入らないため、
空家の可能性の高い棟数としては56棟の情報数を得られた。
情報は住宅課へ伝えその後の住宅課による確認につなげた。
数としては9割方が把握できたものと感じるとともに、すでに対
応を開始されている方も居り住める空家は減少方向にあるように
感じた。
- 2) 持ち主へのコンタクトについて
考える会で作成した思いを込めた手紙と住宅課・シティプロモー
ション課で作成した資料・手紙・アンケートを空家と確認できた
お宅の所有者等へ送付した。
その後の動きはまだ取れていないので今後検討したい。

10 事業の実施内容

- 1) 小曾木地区へ空家事業を実施する旨の地域回覧を実施
- 2) 自治会連合会第6支会の協力で各自治会の空家確認実施
- 3) 空家と思われる住宅情報を住宅課へ連絡
- 4) 住宅課にて空家かどうかの確認を実施
- 5) 空き家の持ち主への協力依頼のお手紙を考える会で作成
- 6) 空家の所有者等へ送付
- 7) 「人口減少時代の実家家屋はどうすべき？ ～空家にしないため
に～」をテーマとした講演会を市役所2階会議室で開催。約30
名の参加。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

| 調査項目 | 団体 | 住宅課 | シティプロモーション課 |
|--------------------------------|----|-----|-------------|
| (1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた | 3 | 3 | 3 |
| (2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された | 4 | 3 | 4 |
| (3)協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 | 3 |
| (4)協働相手は適切だった | 4 | 4 | 4 |
| (5)対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 | 3 |
| (6)協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 | 3 |
| (7)事業実施は円滑になされた | 3 | 3 | 3 |
| (8)設定した目標が達成された | 2 | 2 | 2 |
| (9)協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 | 4 |
| (10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 | 3 |

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

事業途中であり令和6年度も継続して予算は付けない協働事業として進めたい。自治会連合会第6支会の協力が得られ、情報の取得はある程度できた。ただし、個人情報問題は思った以上に壁となり、住民側からの積極的な動きを削ぐ形にもなっている。

また、講演会より空家の問題は法令や基準が様々関わることをより強く感じた。そして、空家対策には地域の良さ自らが理解しを売り込む視点と熱意を強く持たないと進まないとも感じた。

限られた時間の中で十分な事業ができきれていないが、それが空家対策の難しさでもあり簡単に解決できるものでもないとも感じた。今後も継続して地域の空家対策と人口減少の抑止を進めたい。

13 その他

今後については事業継続中との認識から、現在は終了後の話し合いをする進捗ではないと思っている。設定目標も現状の進捗では達成度は低いと思っている。

以上

事業名 Challengers プロジェクト
-青梅市出身のサッカー選手とボールを蹴ろう-

2023 年 8 月 5 日(土) 青梅市立第一小学校校庭



2024 年 1 月 7 日(日) 今井市民センター体育館





- 1 実施団体 (一般社団法人)青梅市サッカー協会
- 2 担当課 スポーツ推進課
- 3 実施時期
- 4 参加者
- 5 実施場所

第一回目

2023年8月5日(土) 青梅市立第一小学校校庭

- ・低学年(1～3年生)…9:30-10:30 18名
- ・高学年(4～6年生)…11:00-12:00 11名

第二回目

2024年1月7日(日) 今井市民センター体育館

- ・低学年(1～3年生)…9:30-10:30 25名
- ・高学年(4～6年生)…11:00-12:00 9名

6 事業の目的

Jリーグが誕生して30年。青梅市からもプロサッカー選手が誕生しています。青梅市で生まれ育った選手たちの技や経験を、次の世代の青梅の子どもたちに生で体験してもらうことが目的。

7 役割分担

- ・団体の役割

青梅市出身のプロサッカー選手との調整

当日の会場設営・運営補助

広報(チラシ作り、HP)・受付のシステム作り

動画撮影編集

- ・担当課の役割

小学校へのチラシ配布等の広報活動

動画の青梅市HPへのUPなど

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

青梅で育つ子供たちが、「スポーツ始めてみたいな」、「僕も青梅で頑張れば、プロサッカー選手になれるな」など、モチベーションを持ってもらうことを効果とします。

9 目標達成

事業の目標：青梅で育ったプロサッカー選手の経験を、青梅の子どもたちに体感してもらい、各子供たちの心の中に「青梅のスポーツレガシー」を残していくことが目標。

目標の達成具合：子供たちの心に一生残る貴重な体験を実現。

10 事業の実施内容

○青梅市出身のプロサッカー選手によるサッカー教室

- ・上田康太(ジュビロ磐田、大宮アルディージャ、ファジアーノ岡山、栃木FC、クリアソン新宿)
- ・一宮憲太(Y.S.C.C.横浜、東京武蔵野ユナイテッドFC)
- ・原菜摘子(元サッカー日本女子代表、2005年アジア年間最優秀選手)
- ・中野就斗(サンフレッチェ広島所属)

各選手と青梅市の子供たちが、サッカーの練習、試合、質疑応答を実施。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

| 調査項目 | 団体 | 担当課 |
|--------------------------------|----|-----|
| (1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた | 2 | 2 |
| (2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された | 3 | 3 |
| (3)協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 |
| (4)協働相手は適切だった | 4 | 3 |
| (5)対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 |
| (6)協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 4 |
| (7)事業実施は円滑になされた | 4 | 4 |
| (8)設定した目標が達成された | 4 | 4 |
| (9)協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 3 |
| (10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 2 | 2 |

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

団体側）

- ・低学年の募集がすぐに満員に、参加者を増やせる余地あり。
- ・選手への報酬がかなり格安でお引き受けいただいた。
- ・好評だったので、継続して行いたい。
- ・青梅市のサッカー環境の改善を求めたい。

行政側）

- ・アンケートの結果9割を超える満足度だった。
- ・小学校へのチラシ配布が夏休みや終業式直前となってしまったので事前の業務スケジュールをもっと協議できればよかった。
- ・参加者の意見でクラブには入りたくないが、サッカーが好きで関わりたいという方もいたので、こういったスポーツイベントを今後もっと増やし、様々なスポーツに触れる機会を作っていきたいと思う。
- ・プロの選手を間近で見れるのは珍しいことだが、青梅市出身でプロの選手がいるということ、またその人に実際に会って、直接教えてもらうことは、かなりモチベーションの向上につながると思う。他のスポーツでもプロ選手や活躍している選手はいるので今後のスポーツイベントの参考になった。

13 その他